ロック&ジグザグ

ジャノメコンビ

ご使用前に、この取扱説明書を十分、お読み下さい。
この取扱説明書はお使いになる方が、いつでも見られるところに保管して下さい。

安全にご使用いただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守って下さい。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY

⚠ 警告　感電、火災の恐れがあります

1．一般家庭用交流電源100 Vでご使用下さい。
2．以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いて下さい。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意　感電、火災、けがの原因となります

1．フットコントローラーの上に物を乗せないで下さい。
2．お客様自身での分解、改造はしないで下さい。
3．ミシンの操作時は、かまカバー、面板などのカバー類を閉じて下さい。
4．ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、ルーパー、メス、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないで下さい。
5．曲がった針はご使用にならないで下さい。
6．縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないで下さい。
7．お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意して下さい。
8．以下のことをするときは、電源スイッチを切って下さい。
・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき
・上糸、下糸、針糸、ルーパー糸をセットするとき
・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行って下さい）
・取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき
9．ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店、または、サービスセンターにて点検、修理、調整をお受け下さい。
・正常に作動しないとき
・落下などにより破損したとき
・水に濡れたとき
・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
・異常な臭い、音がするとき

ジャノメ・コンピ2300ＳＸをお買い上げいただきましてありがとうございます。一台で二役――世界で唯一のミシン『コンピ2300SX』は直線・ジグザグミシンとオーバーロックミシンの機能を持つホームソーイング向きの万能ミシンです。
ターンテーブルをくるっと回せば、直線・ジグザグ側からオーバーロック側に切りかわります。

らくらくソーイング－直線・ジグザグ－

- 豊富な実用縫い――直線縫いから、ジグザグ縫い、ボタンホールまで、洋裁に必要な縫いはすべて揃っています。
- 縫い目の選択は、ダイヤルを回すだけ。初心者でもすぐ縫えます。
- ボビンケースのいらない水平全回転釜、ボビンの出し入れが簡単でしかも下糸の残量を見ながら縫えます。
- ワンタッチで押えの交換ができます。
- 糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、バランスよく縫える糸調子に自動セットされます。

らくらくソーイング－オーバーロック－

- 美しい縫い目の二本糸オーバーロック――布の裁ち端を切りながら裁ち目かがりをします。又、手芸糸、毛糸などを用いていろいろな装飾縫いが楽しめます。
- 耐久性抜群のメスは、薄物から厚物まで、シャープな切れ味です。
- 針板と押えを交換すると、縫い目のあらさを調節して巻き縫いができます。
- 糸こまを糸立て棒に入れたままでカバーに収納できるので、糸かけをする手間がはぶけます。
- ミシン針は市販の家庭用ミシン針を用いています。

目　次

準　　備

●各部の名まえ《直線・ジグザグ側》……4
●各部の名まえ《オーバーロック側》……5
●標準付属品……6
●補助テーブルのはずし方、つけ方……6
●電源をつなぎましょう……7
●速さの調節になれましょう……7
●オーバーロックより直線・ジグザグへの
　切りかえ方……8
●ミシンの向きのかえ方……8

直線・ジグザグ側の使い方

●押えのはずし方、つけ方……9
●送り歯のさげ方……9
●布に適した糸や針を選ぶ目安……10
●針のとりかえ方……11
●下糸の準備をしましょう……12～14
●上糸の準備をしましょう……15～17
●糸調子を合わせましょう……18
●模様の選び方……19
●縫い目あらさの調節……19～20
●返し縫いのし方……20

直線・ジグザグの基本縫い

●直線縫い……21
●送りジョーズの使い方……22
●ジグザグ縫い……22

直線・ジグザグの実用縫い

●三重縫い……23
●ボタン穴かがり（ボタンホール）……24
●くけ縫い（まつり縫い）……25
●ファスナーつけ……26～29
●三つ巻き縫い……30

直線・ジグザグの応用縫い

●ピンタック……31
●アップリケ……32
●パッチワーク……32
●シェルタック……33
●貝形ふちかがり（ブランケットステッチ）…33
●フリンジ縫い……34
●糸を使ったフリンジ……35
●ギャザーよせ……36
●ドロンワーク……37
●ファゴティング……37

オーバーロック側の使い方

●準備……38
●布くず案内板のあけ方、しめ方……38
●オーバーロック縫いの種類……39
●布に適した糸や針を選ぶ目安《ふちかがり縫い》…40
●針のとりかえ方……41
●押えのあげ方、さげ方……41
●糸こま押え、糸こまネットのつけ方……42
●ルーパー糸の通し方……43～44
●針糸の通し方……45～46
●送り目盛の選択のし方……47
●糸調子の出し方……48

オーバーロックの縫い方

●試し縫いをしましょう……49～50
●ふちかがり縫い……50～51
●巻き縫い、ピコ縫い、細ロック縫い……52～54
●オーバーロックの上手な使い方……55

ミシンの手入れと調整

●ミシンの手入れ
　■かまの掃除……56
　■かまの分解……56

■かまと送り歯の掃除……57
■かまの組立て……57
■送り歯の掃除〈オーバーロック側〉……58
■切りくずの掃除……58
■電球のとりかえ方〈直線・ジグザグ側〉…59
■電球のとりかえ方〈オーバーロック側〉…59
■外装の手入れ……60
■メスの交換……60
■注油のし方……61
●調子がよくないときの直し方……62～64

○おとり扱いについてのお願い

★より安全のために……

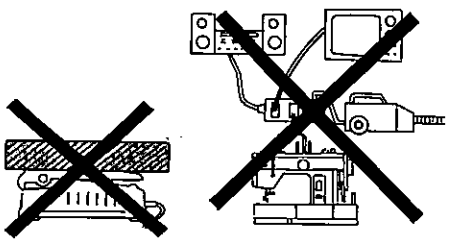
①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないで下さい。

②つぎのようなときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

■使用後　■ミシンのそばをはなれるとき
■部品をつけたり、はずしたりするとき
■ミシンの手入れをするとき

③コントローラーの上には物をのせないでください。

④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。



★ご使用の前に……

①ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。

②ミシンのセットや、押え、針を交換するときには、この《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。

③ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

★いつまでもご愛用いただくために……

①長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。

②湿気の多いところはさけてください。

●修理、調整についてのご案内

万一不調になったり、故障を生じたときは、「調子がよくないときの直し方」(62～64ページ) により点検・調整を行なってください。それでも調子が悪いときは、お買い上げいただいた支店、または近くの支店へご連絡ください。

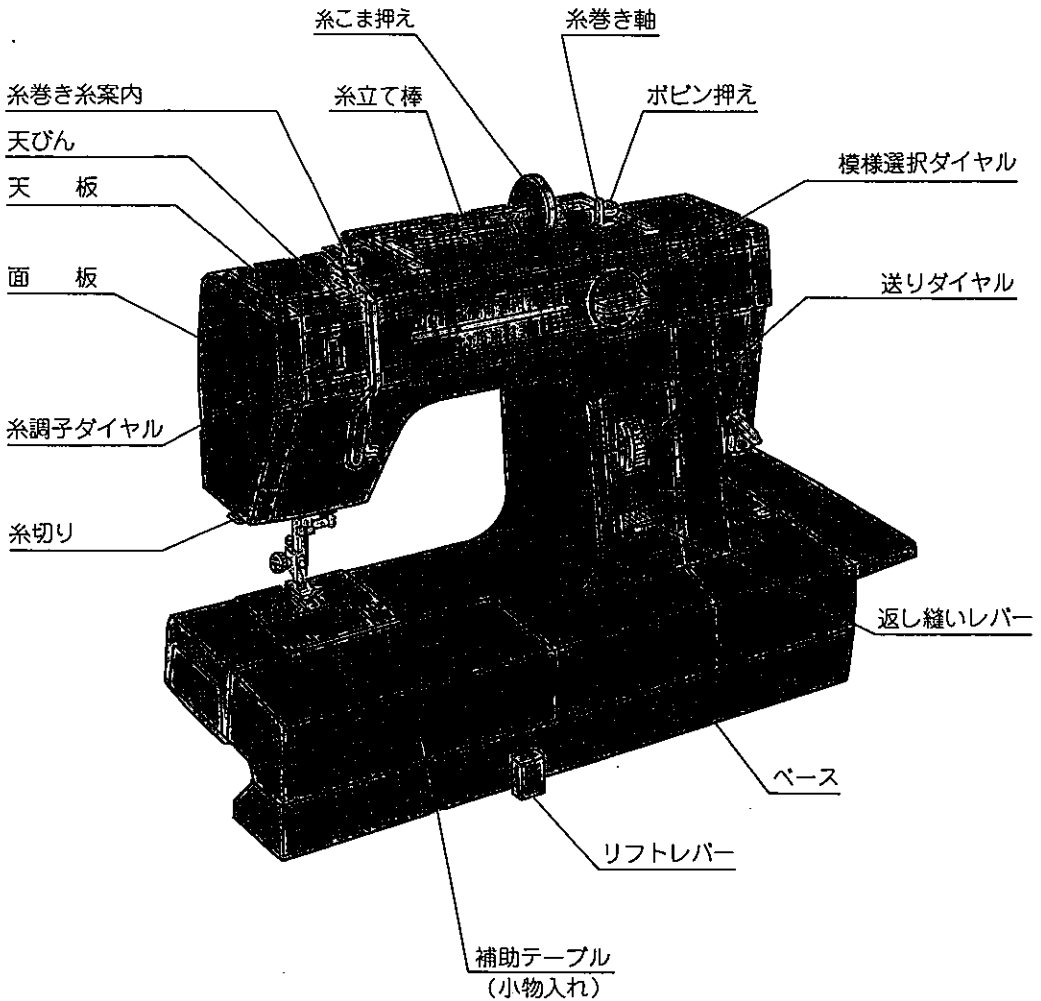
●このミシンは、日本国内用に作られていますので、外国では使用できません。

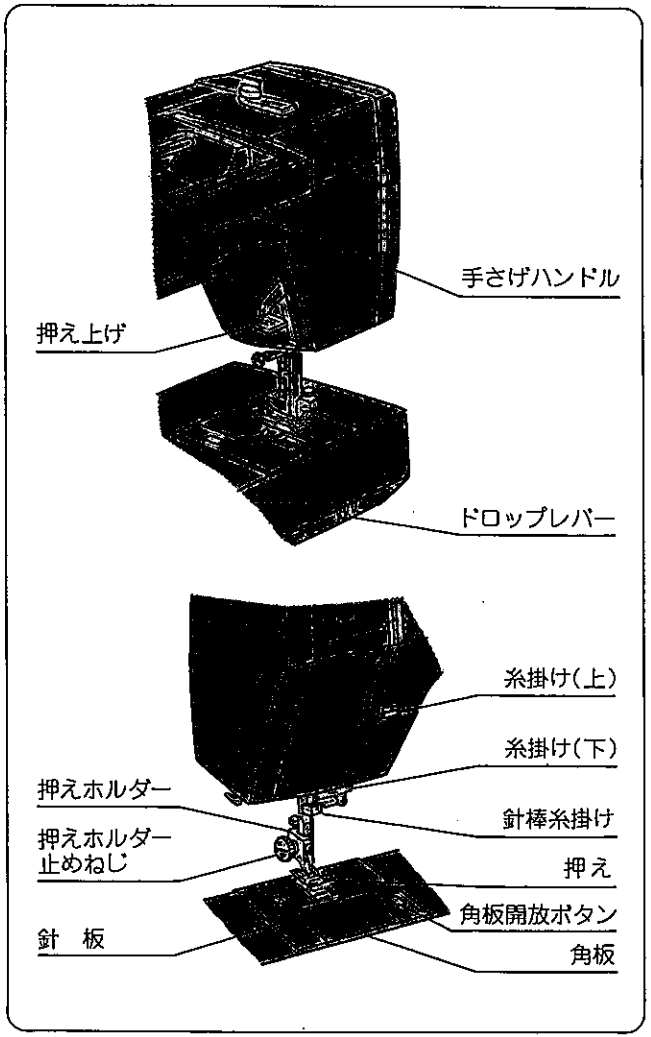
(This sewing machine can not be used in foreign country as designed for Japan only.)

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承下さい。

○各部の名まえ

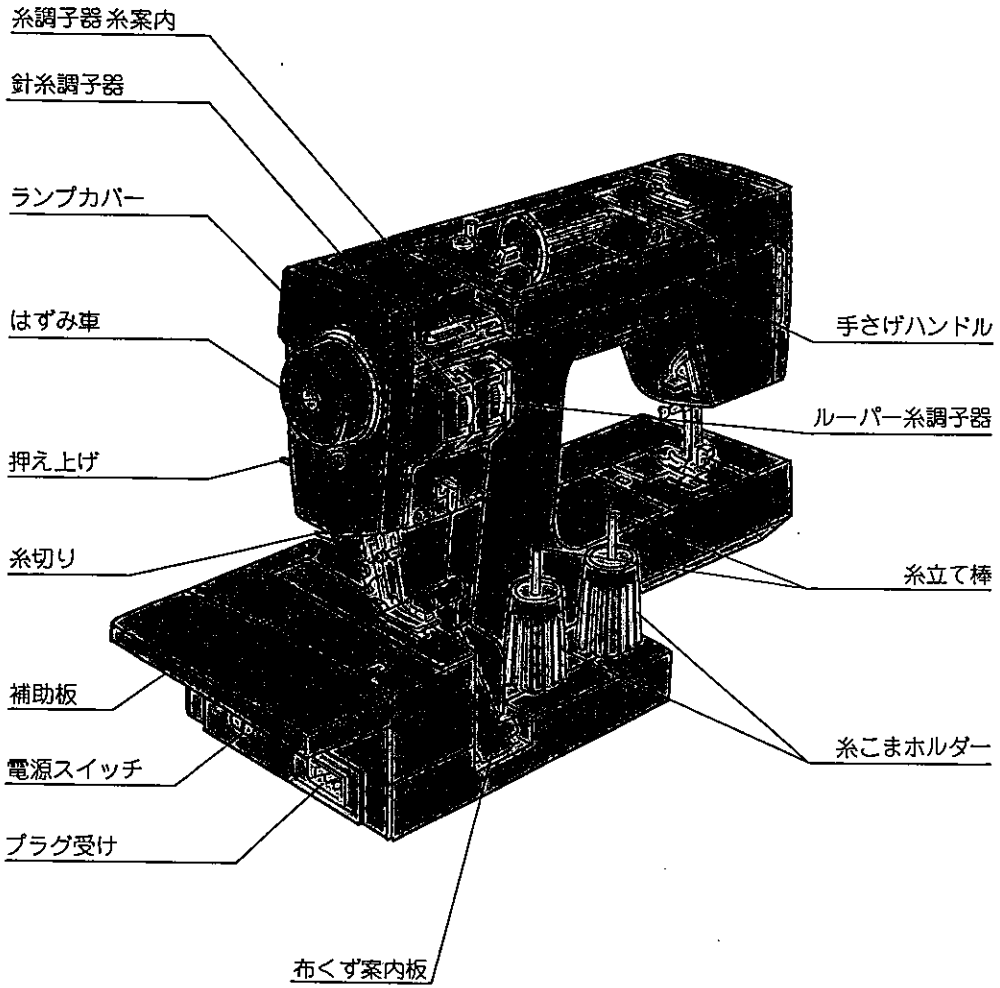
《直線・ジグザグ側》

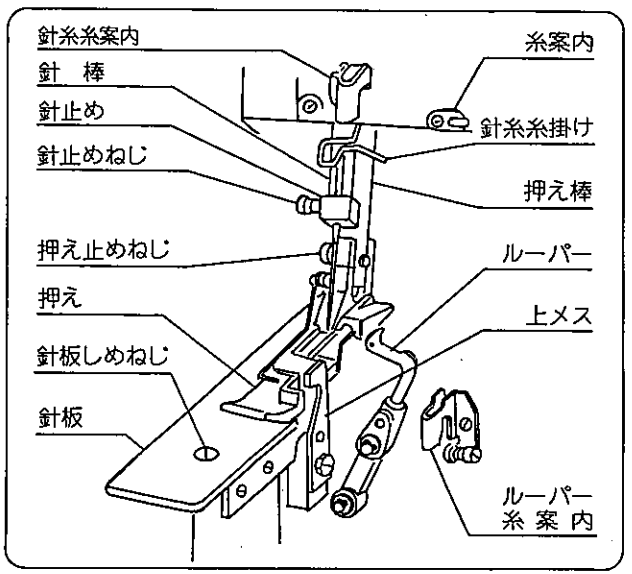




○各部の名まえ

〈オーバーロック側〉

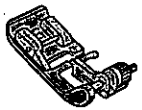




○標準付属品

《オーバーロック用》

E. ファスナー押え
200,-


G. くけ縫い押え
250,-

D. 三つ巻き押え
150,-

ボタンホール押え
200,-

ボビン 30,-

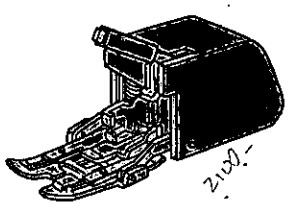
フェルト
20,-

補助糸立て棒
20,-

ねじまわし
50,-

ブラシ30,-

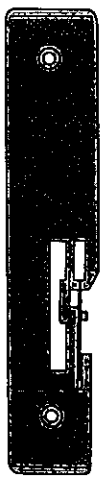
糸こま押え(大)(小)


送りジョーズ
2,100,-

針ケース
200,-

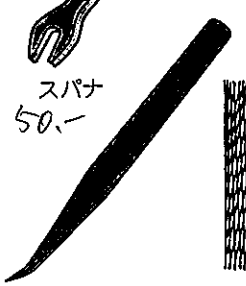
目ほどき
100,-

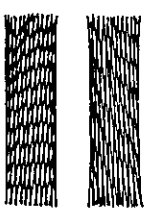
巻き縫い押え
1000,-


巻き縫い針板
950,-

糸こま押え
@50,-

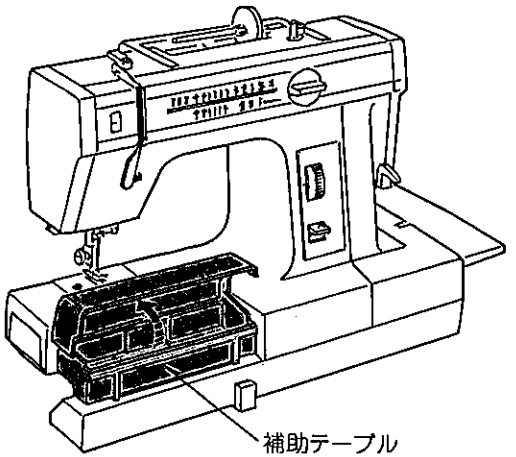
スパナ
50,-

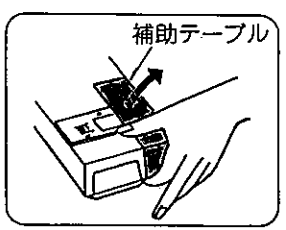

ピンセット
250,-


糸こまネット
@20,-

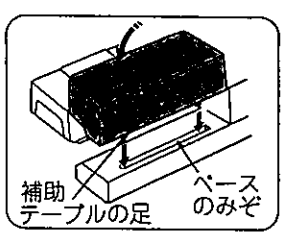
¥2,340

○補助テーブルのはずし方、つけ方



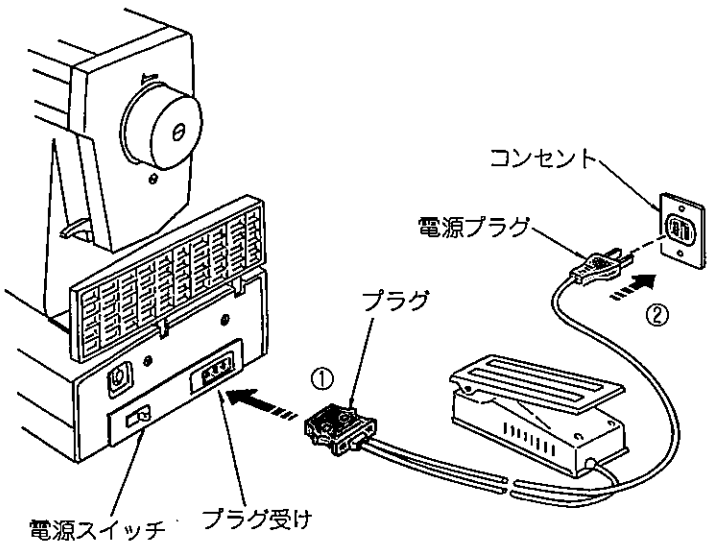


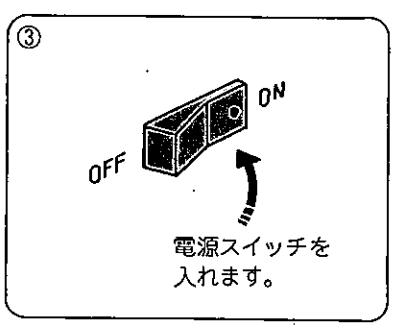
《はずし方》
補助テーブルの下側に手をかけて持ちあげます。



《つけ方》
ベースのみぞに補助テーブルの足を合わせてのせ、上から軽く押します。

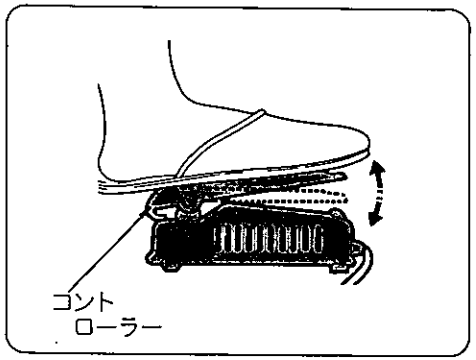
○電源をつなぎましょう





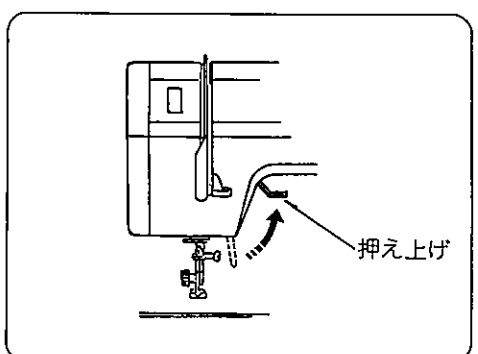
①電源スイッチをＯＦＦにしてプラグをプラグ受けにさしこみます。
②電源プラグをコンセントにさしこみます。
③電源スイッチをＯＮにします。

○速さの調節になれましょう

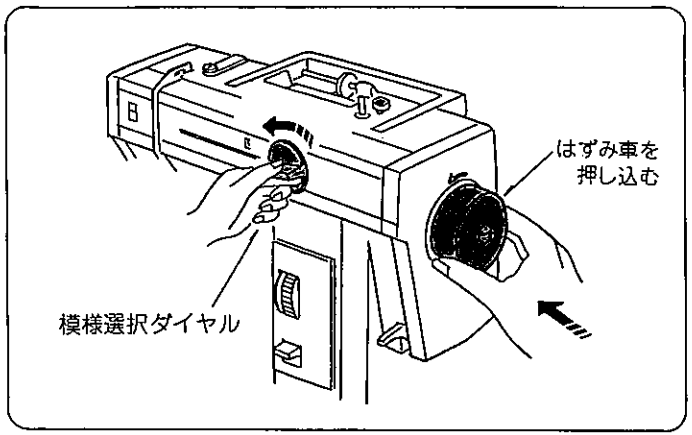


コントローラーは、深く踏みこむほど、速くなります。
浅く踏む……おそくなる
深く踏みこむ……はやくなる

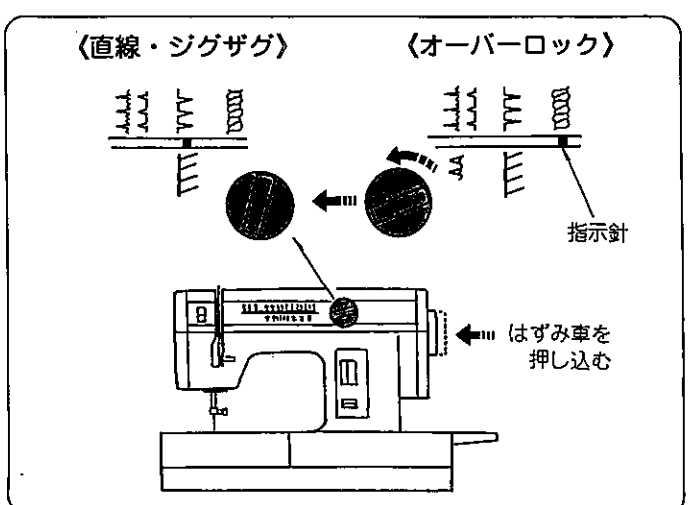
＊押え上げをあげ、コントローラーを踏んで、踏みこみと速さの関係になれてください。



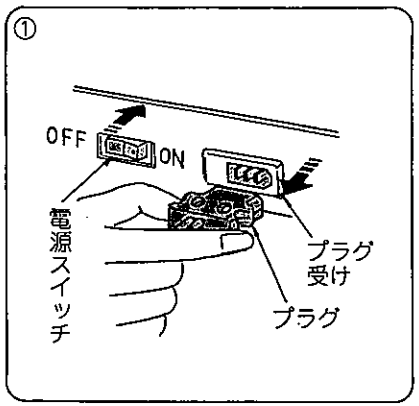
○オーバーロックより直線・ジグザグへの切りかえ方



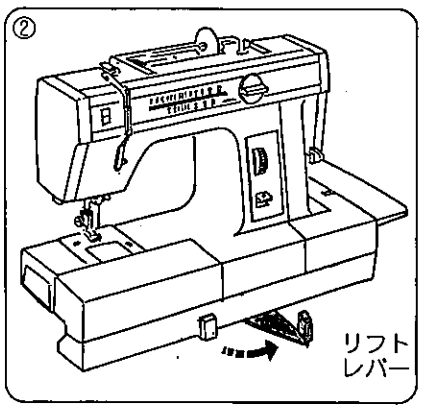
○はずみ車の外周を持って止まるまで押し込み、その状態で模様選択ダイヤルをまわして切りかえます。
＊照明ランプも自動的に切りかわります。



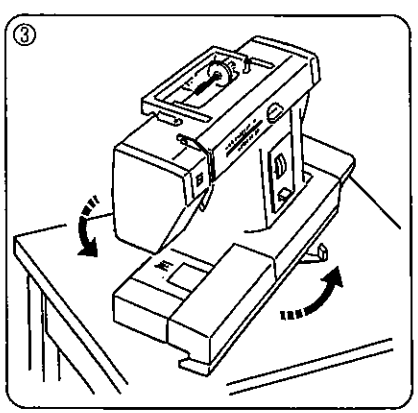
○ミシンの向きのかえ方



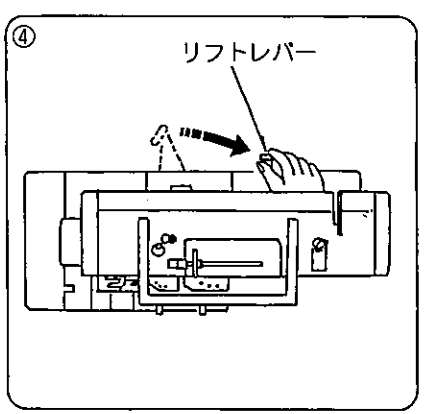
①電源スイッチをＯＦＦにして、プラグをミシンのプラグ受けから抜きます。



②リフトレバーを矢印の方向に動かします。



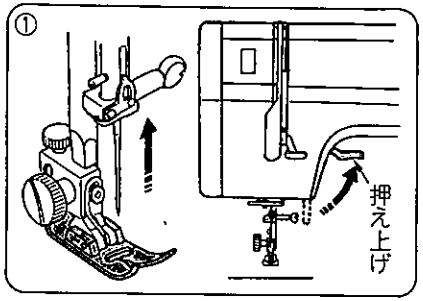
③ミシンをまわして、向きをかえます。



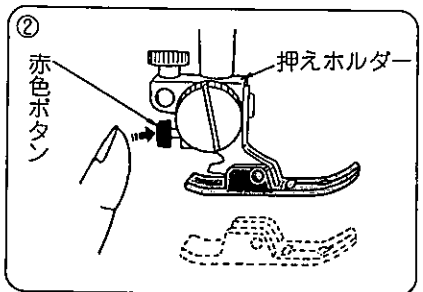
④リフトレバーをもとの位置にもどして、電源をつなぎます。

●押えのはずし方、つけ方

★はずし方

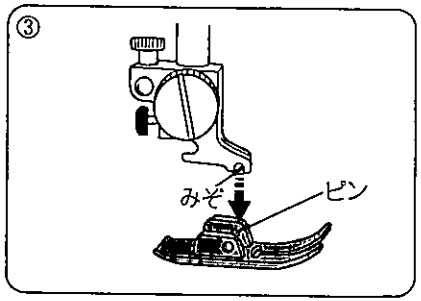


①針をあげ、押え上げをあげます。



②押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。

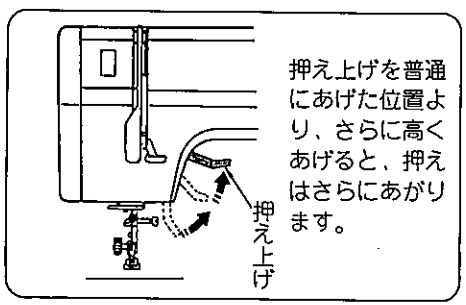
★つけ方



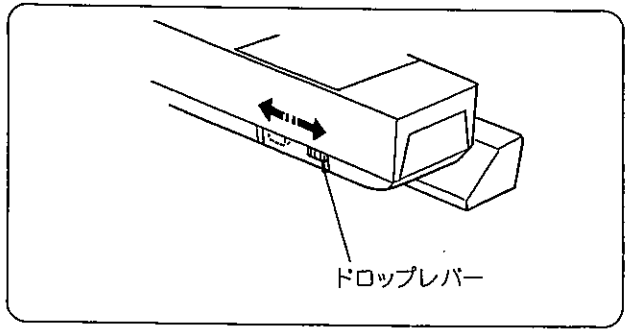
③押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、押え上げを静かにおろします。

＊ファスナー押えのつけ方は、ファスナーつけ（26、28ページ）をごらんください。

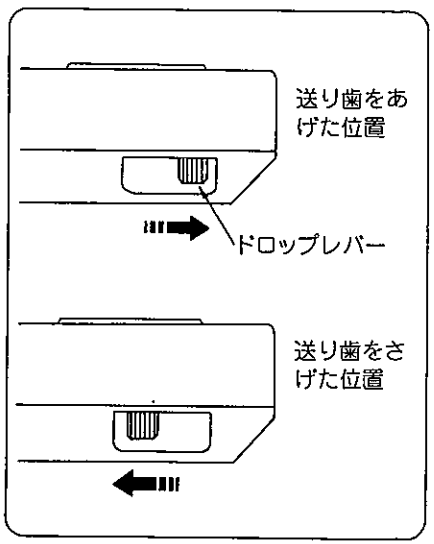
《厚い布を入れるとき》



●送り歯のさげ方



○ししゅう縫いなどのため送り歯をさげたいときは、ドロップレバーを動かします。



＊通常は送り歯をあげた位置にセットしておきます。

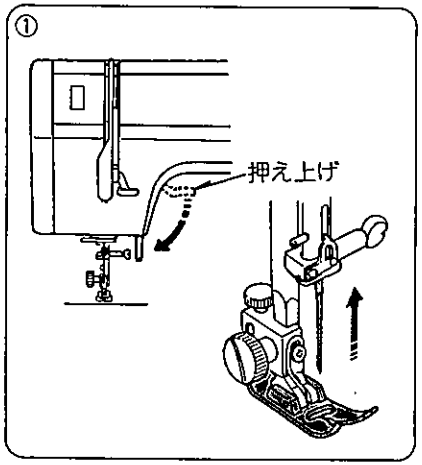
○布に適した糸や針を選ぶ目安

布の厚さ	布の種類				糸	針
	木綿	絹	ウール・化繊織物	ニット		
うすい布	ローン、ボイル	シフォン、ジョーゼット、オーガンジー	デシン、クレープ、モスリン	スムーズニット地 トリコット地	絹糸 80番～100番 綿糸 80番～100番 化繊糸 80番～100番	HA-1 9番～11番
普通の布	ブロード、サッカー、ピケ	タフタ、ファイユ、サテン	ジョーゼット、フラノ、サキソニー	ジャカードニット地	絹糸 50番 綿糸 60番～80番 化繊糸 50番～80番	HA-1 11番～14番
					綿糸 50番	HA-1 14番
厚い布	デニム、キルティング、ギャバジン		ツィード、ギャバジン、コート地	ダブルニット地	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 化繊糸 40番～50番	HA-1 14番～16番
					絹糸 30番 綿糸 30番	HA-1 16番

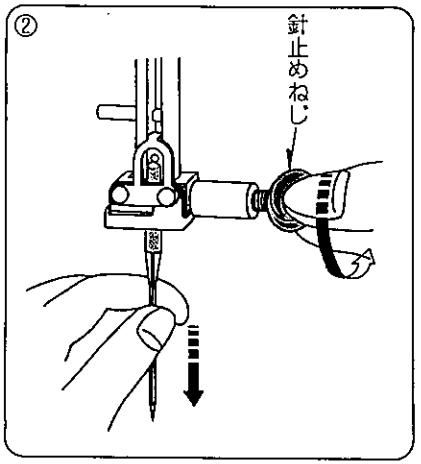
＊普通上糸と下糸は同じ糸を使います。
＊うすい布には細い糸と針、厚い布には太い糸と針を使うのが原則です。
＊ごくうすい布は、下に紙をしいて縫ってください。

＊針や糸は、実際に縫う布の端切れを使って、試し縫いをして確かめてみましょう。
＊ジャノメブルー針は、柄の部分が青色をしています。伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や、目とびしやすい布に効果があります。

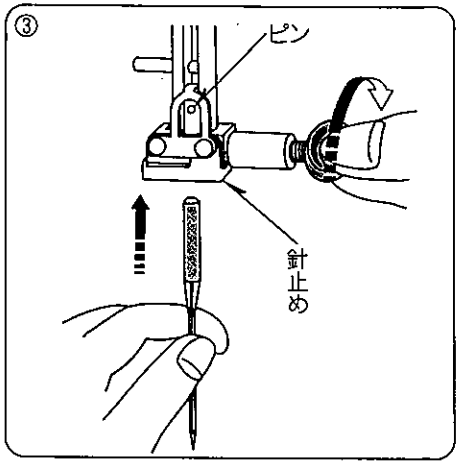
○針のとりかえ方



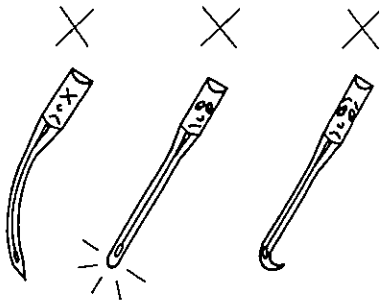
①はずみ車を手前にまわして、
針をあげ押え上げをさげます。



②針止めねじを手前にまわして
ゆるめ、針をはずします。



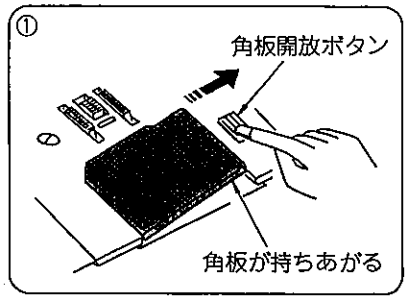
③針の平らな面を向こう側に向けて、
ピンにあたるまで針止めにさしこみ、
針止めねじをかたくしめます。



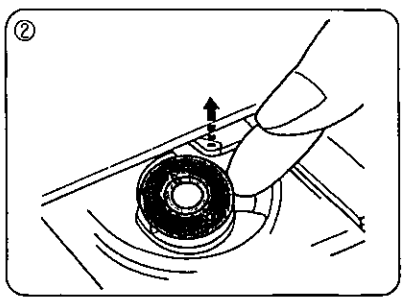
＊全体にまがってしまったものや、針先のつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。

○下糸の準備をしましょう

★ボビンをとり出します

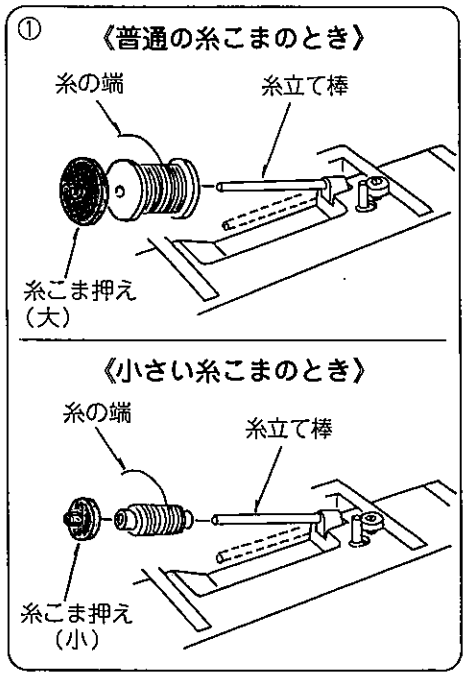


①角板開放ボタンを右へずらして角板をはずします。

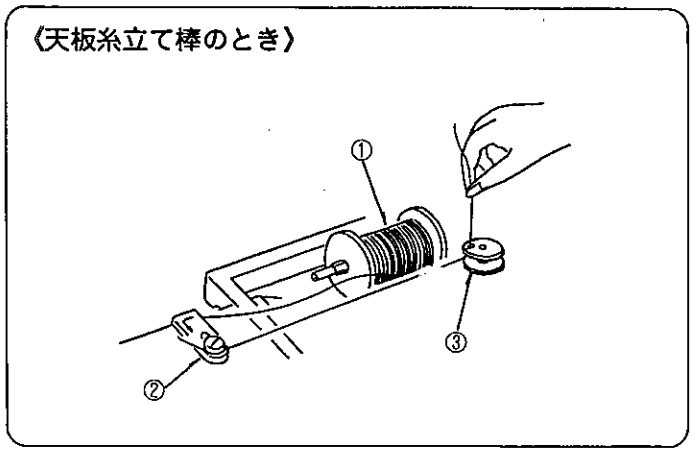


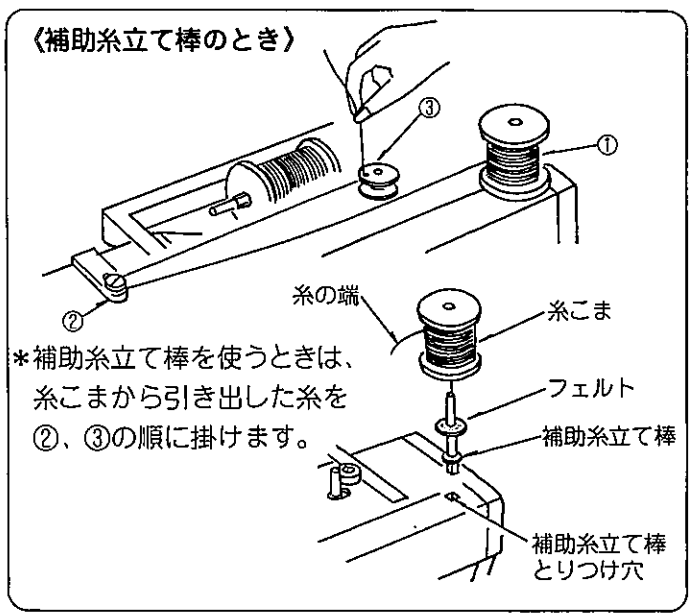
②ボビンをとり出します。

★ボビンに糸を巻きます

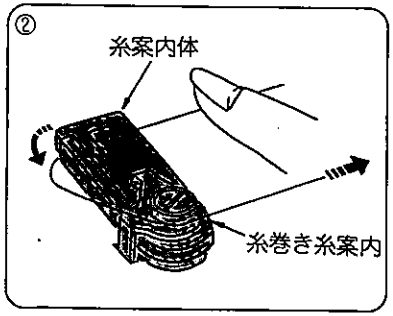


①糸立て棒を軽くおこし、糸の端が手前から向こう側に出るようにして糸こまを入れます。
糸こま押えで糸こまをおさえたら、糸立て棒をもとに戻します。

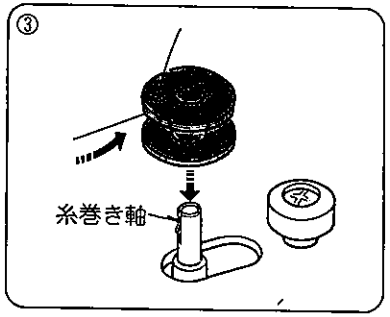




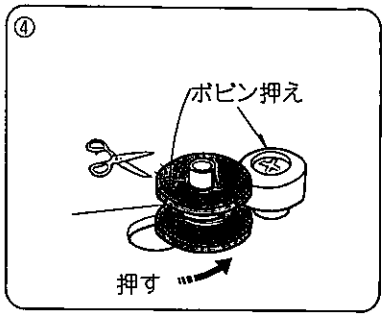
＊補助糸立て棒を使うときは、糸こまから引き出した糸を②、③の順に掛けます。



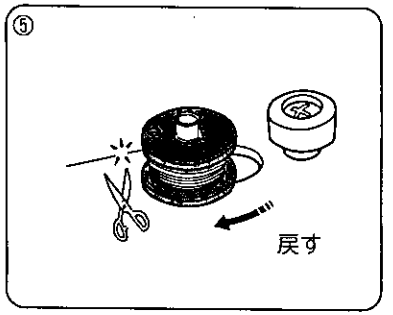
②糸こまから引き出した糸を糸案内体に掛けます。糸を指先で軽く押えて糸巻き糸案内に掛けます。



③ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。

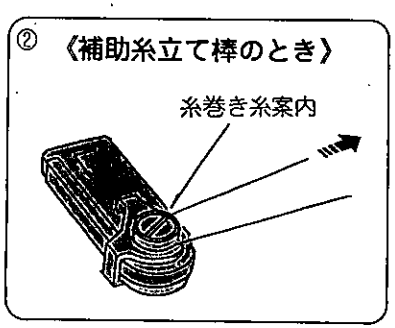


④ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ、糸の端をつまんだまま巻きはじめ、ボビンに糸を三重ぐらい巻いたら、ミシンをとめて穴のきわで糸を切ります。



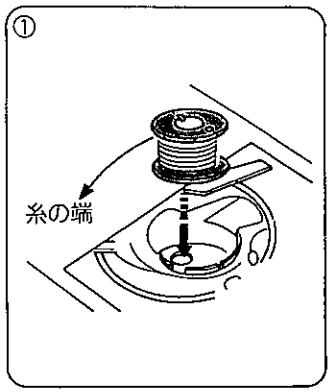
⑤コントローラーをふたたび踏んで、巻きおわったらボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして、糸を切ります。

＊糸巻き軸の移動は、必ずミシンを止めてから行なってください。

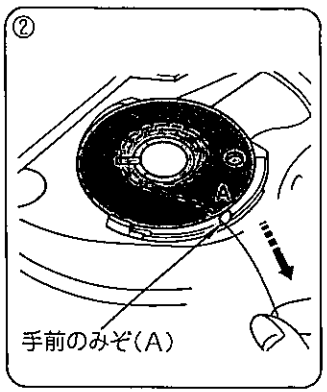


②糸巻き糸案内に、糸こまから引き出した糸を掛けます。

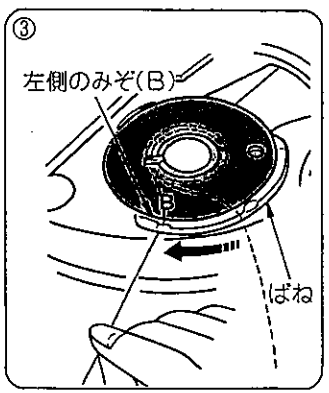
★ボビンをかまにセットします



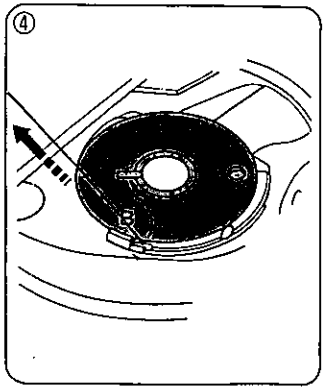
①糸の端を矢印方向に出し、ボビンをかまに入れます。



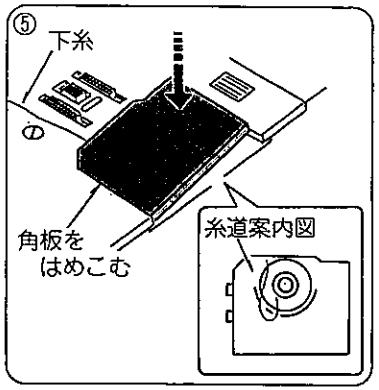
②糸の端を引きながら、手前のみぞ(A)に掛けます。



③糸を引きながら、左へ移動させ、みぞの外側とばねの間を通し、左側のみぞ(B)のところに出します。

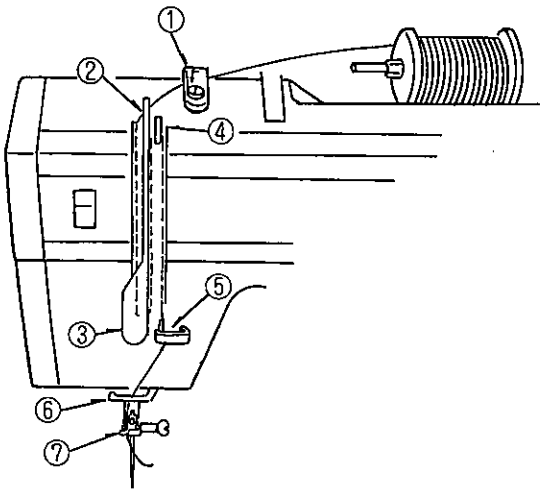


④糸を左側のみぞ(B)に掛けるように向こう側に出します。



⑤下糸を10㎝くらい引き出して、角板をつけます。

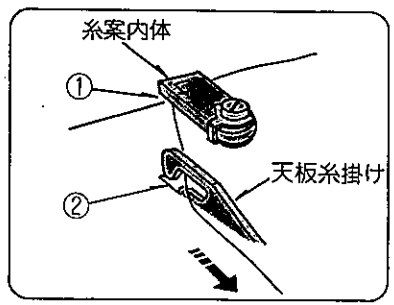
○上糸の準備をしましょう

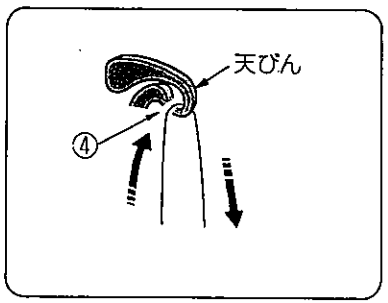


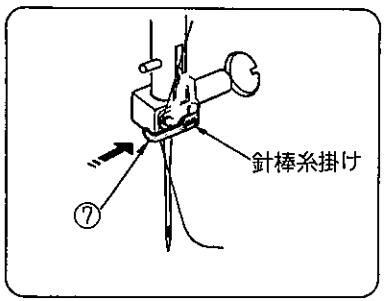
★上糸を掛けます

押え上げをあげ、天びんが最上部にあるのを確かめて、糸こまを押えながら、糸こまから引き出した糸を正しく掛けてください。

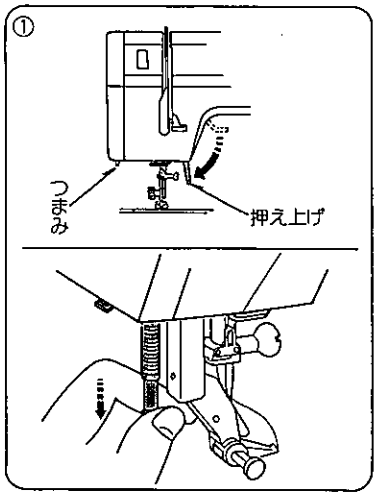
①糸案内体の下に入るようにして掛けます。
②天板糸掛けに巻きつけるようにして掛け、糸案内板にそっておろします。
③糸案内板の下をまわして、右上に引きあげます。
④天びんに、左からうしろへまわして右手前に出し、まっすぐ下におろします。
⑤糸掛け(上)に右から左に掛けます。
⑥糸掛け(下)に左から右に掛けます。
⑦針棒糸掛けに左から掛けます。





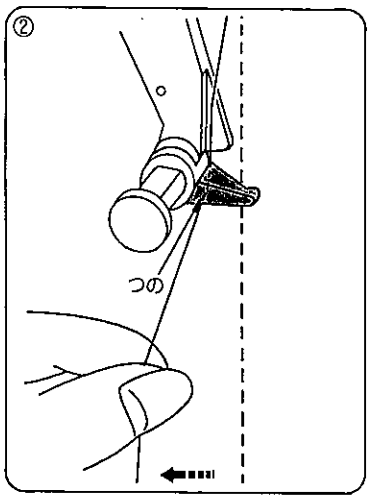


★糸通しを使って針に糸を通します

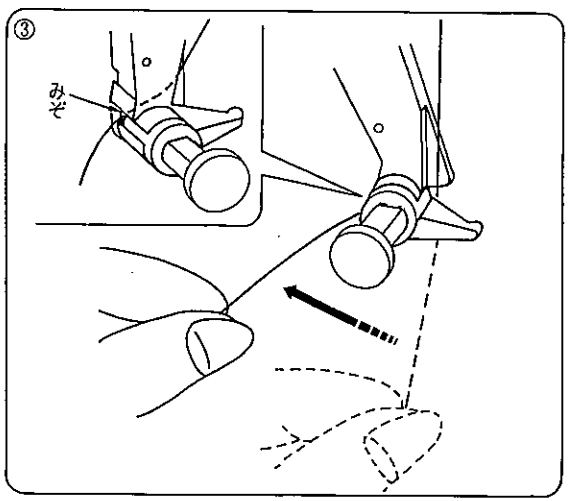


①押え上げをさげます。針を一番上まであげて下さい。そして糸通しのつまみを止まるまでいっぱいに、引きさげます。

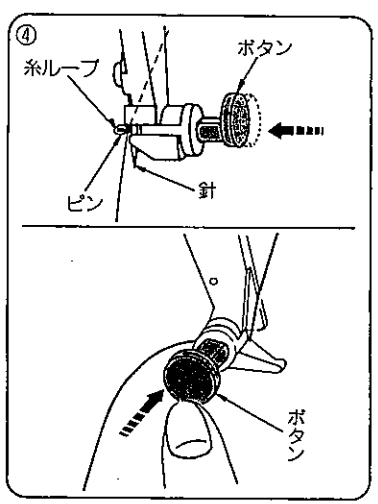
＊針があがっていることを確かめましょう。



②糸を、つのの向こう側に掛けて、左にすべらせます。

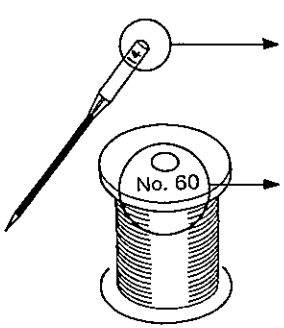


③左手前に引きながら、裏側のみぞに入れ、糸の端を手前にたらします。



④ボタンを静かに、いっぱいまで押すと、ピンが糸ループといっしょに針穴を貫通するので、それを確認してから指をはなします。

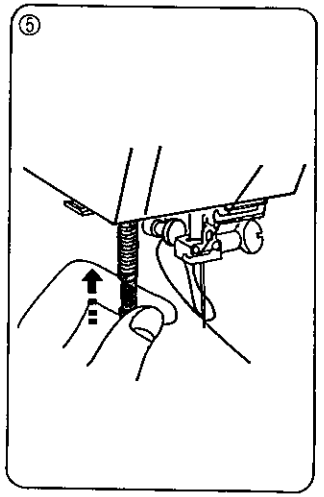
＊ピンが針にあたって、うまく針穴に入っていかないときは、無理にボタンを押さないで①からやり直してください。

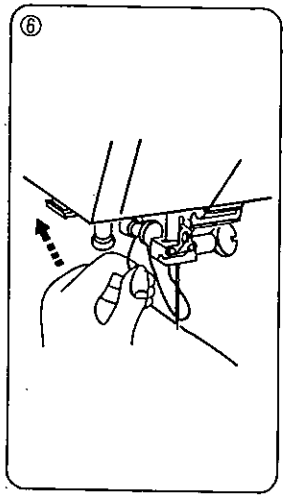


針は、11～16番、およびジャノメブルー針が使えます。

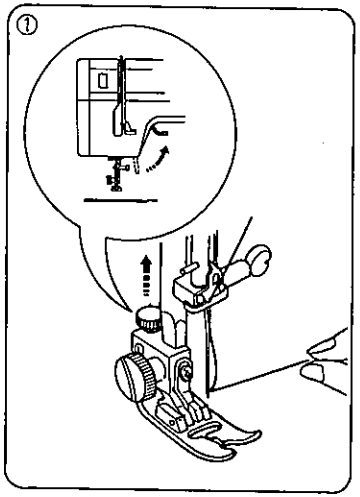
糸は50～100番が使えます。

★下糸の引きあげ方

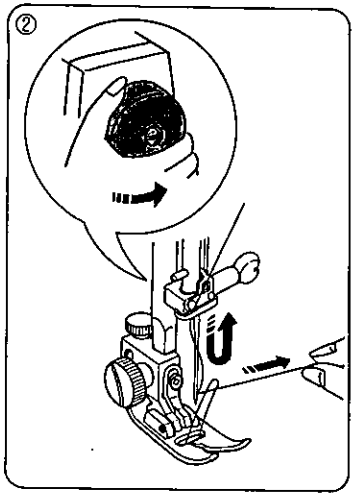




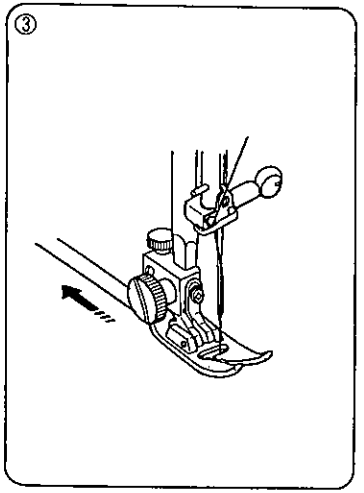
⑤つまみを静かに押しあげると、ボタンの後ろ側のフックで糸の輪が引きあげられます。
⑥糸の輪を上方に引きあげるようにして、糸通しからはずし、針穴から糸の端を引き出します。



①押え上げをあげ、左手で、上糸の端を、ややゆるめて持ちます。



②右手ではずみ車を手前にまわし、針をいったんさげてあげます。天びんが最上部にきたら、上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

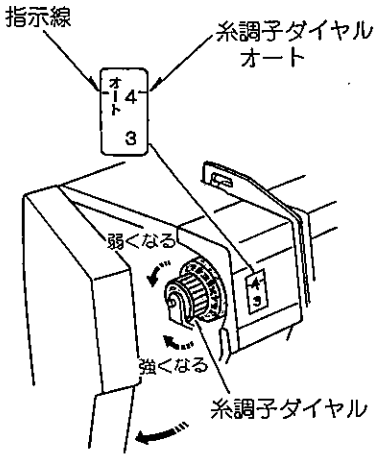


③上糸と下糸を、押えの下から向う側に、10cmほど引き出して、そろえておきます。

○糸調子を合わせましょう

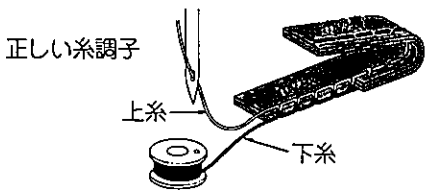
★自動糸調子

このミシンは、糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、普通の縫いのときにバランスよく縫える糸調子に自動セットされます。



《バランスのとれた糸調子》

○直線縫いのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。



○ジグザグ縫いのときには、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

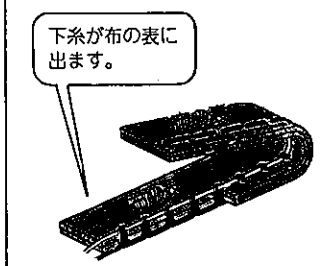
糸は50番～100番を使います。

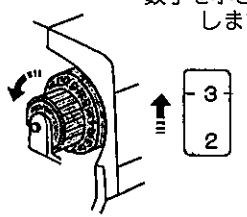
＊糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをマニュアルで調節して合わせます。

★マニュアル糸調子

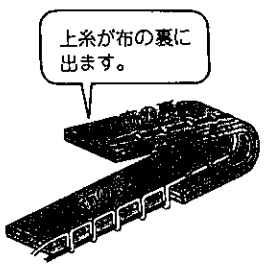
糸調子ダイヤルを「0～9」に合わせるとマニュアル糸調子となり、上糸と下糸のまじわる位置を自由に調節できます。

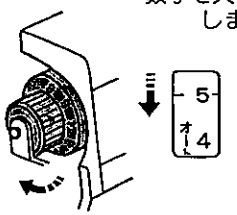
《上糸調子が強すぎるとき》





《上糸調子が弱すぎるとき》



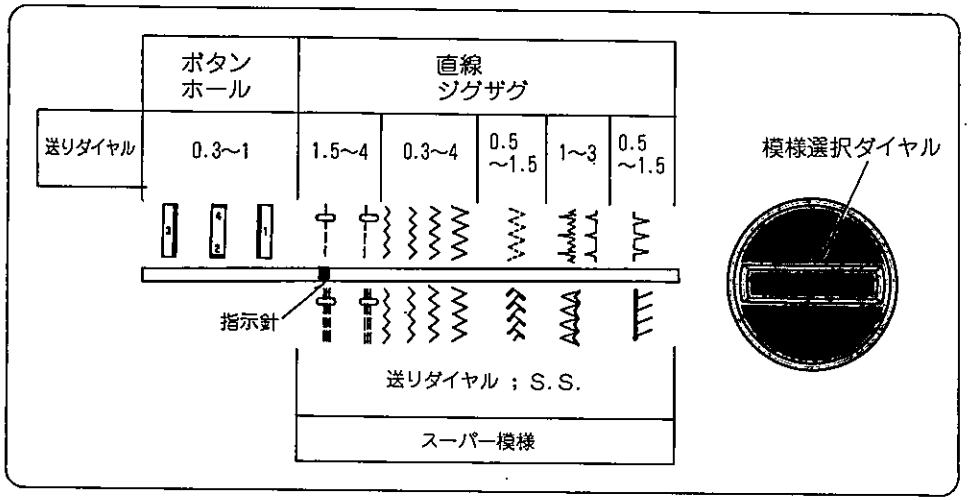


＊素材や縫い方によって、糸調子ダイヤルをまわして調整します。

＊糸調子が正しく調整されていないと、縫い目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

＊糸調子は、それぞれの〈ミシンのセット〉にその目安を示してあります。

○模様の選び方



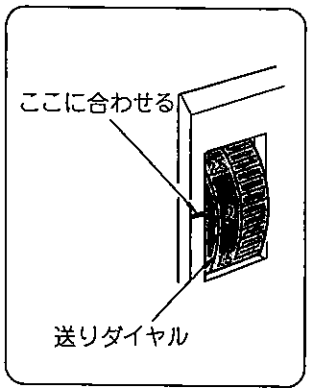
○針をあげて模様選択ダイヤルをまわし、指示針を模様に合わせて選びます。

○模様と送りダイヤルは、上表を目安にセットしましょう。

＊オーバーロックへ切りかえるときは、38ページを参照してください。

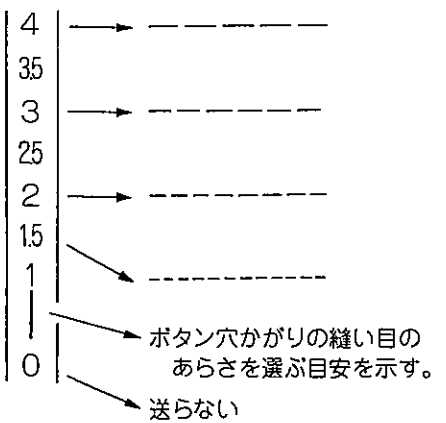
＊針が布にささったままで、模様選択ダイヤルをまわすと、針が、まがったり、折れたりする原因になります。

○縫い目あらさの調節

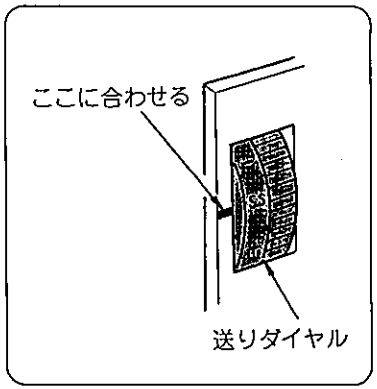


○送りダイヤルをまわして、縫い目のあらさをセットします。

模様選択ダイヤルをまわし、指示針を(⬭)に合わせておいて、送りダイヤルをまわすと、縫い目のあらさは、下図のように変化します。

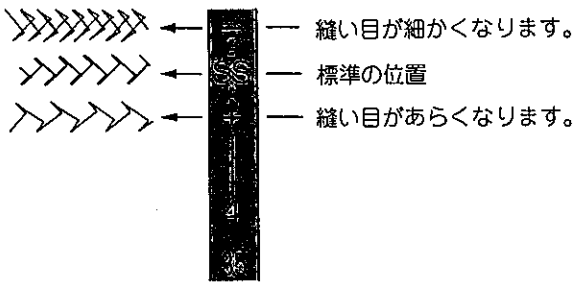


《スーパー模様の選び方》



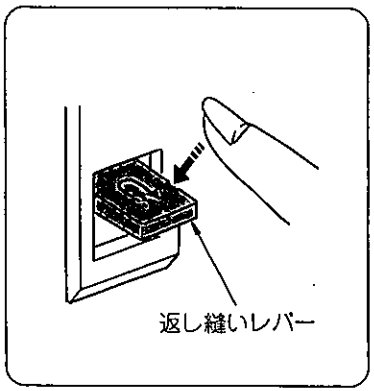
○送りダイヤルをS. S. に合わせると、模様選択ダイヤルで選んだ縫い目は、スーパー模様になります。

《例》



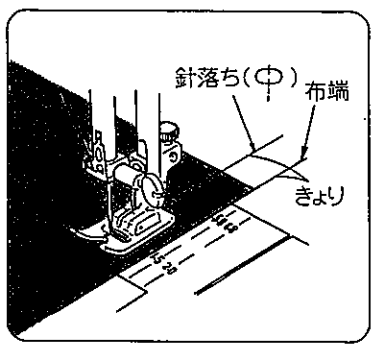
通常、標準の位置S. S. で縫いますが、縫い目のあらさを変えたいときに調節します。

○返し縫いのし方



○返し縫いレバーを押している間は、返し縫いとなり、指をはなすと、前進縫いにもどります。

★針板ガイドラインの利用

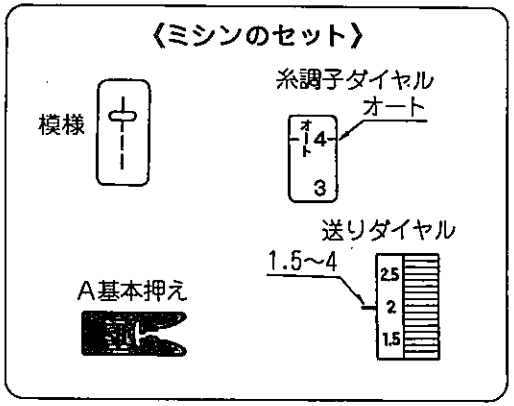


布端を針板のガイドラインに合わせて縫います。

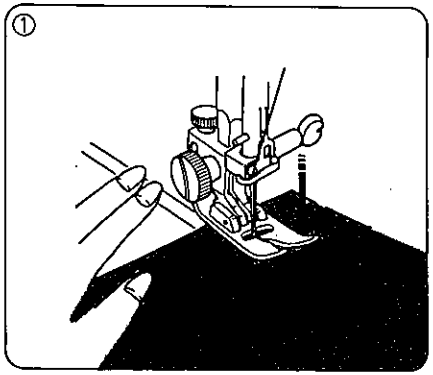
＊数字は、針落ち（中）から布端までのきょりです。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
きょり(cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

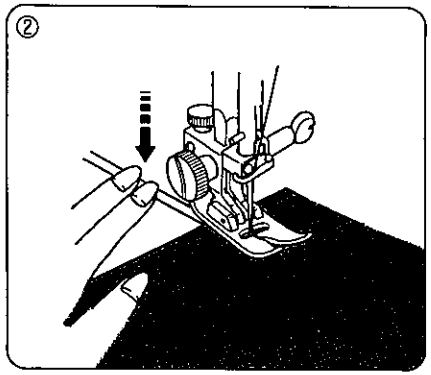
○直線縫い



★縫いはじめ

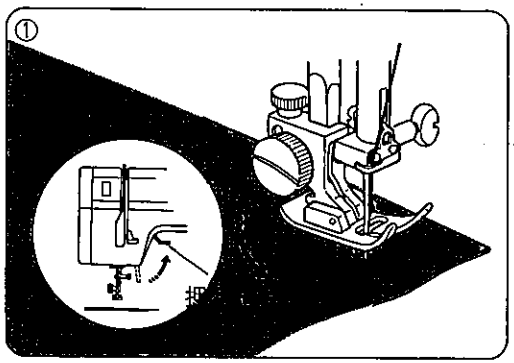


①糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。



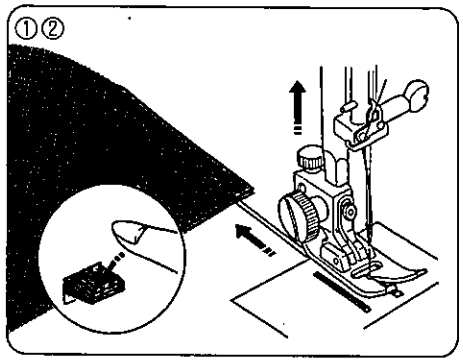
②押え上げをさげて、コントローラーを軽く踏み、ゆっくり縫いはじめます。

★縫い方向をかえるには



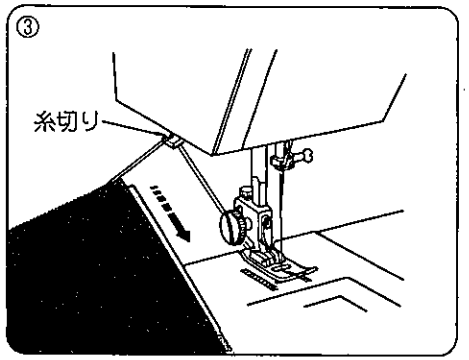
①ミシンを止め、針を布にさしたまま押え上げをあげ、縫い方向をかえます。

★縫いおわりの返し縫い



①返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。

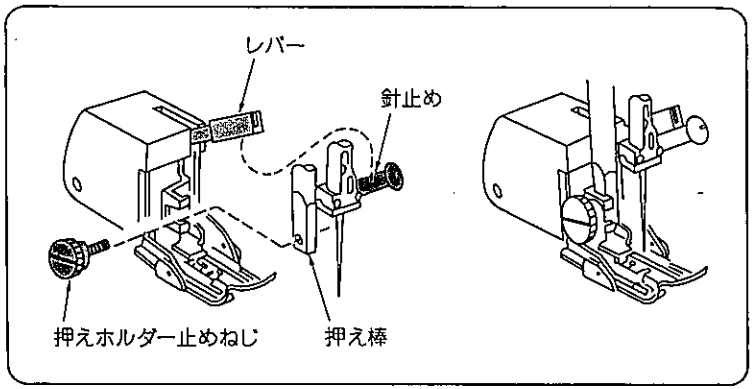
②押え上げと針をあげて、布を向こう側に、静かに引き出します。



③糸切りで糸を切ります。

○送りジョーズの使い方

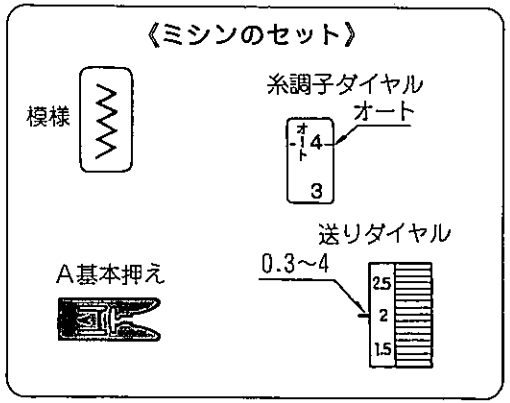
送りジョーズは、上下の歯で布をはさみこみながら布送りをするので、薄物、ニット地、ビニールレザー、皮革などの素材に使用すると縫いずれや縫いじわを防止するのに効果があります。

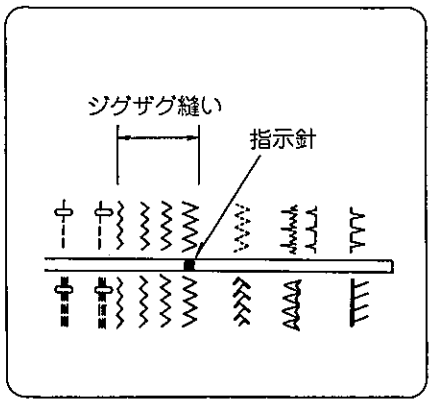


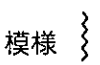
①はずみ車をまわして針をあげ、押え上げをあげます。
②押えホルダー止めねじをゆるめて、押えホルダーをはずします。
③レバーが針止めにのるように、送りジョーズを向こう側から押え棒にとりつけ、押えホルダー止めねじでしっかりとしめます。

＊低速から中速くらいの速さでミシンを運転してください。

○ジグザグ縫い





＊模様  の間でかえると縫い目の巾（ジグザグ巾）は、図のように変化します。

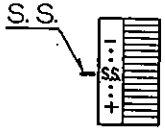
○三重縫い

〈ミシンのセット〉

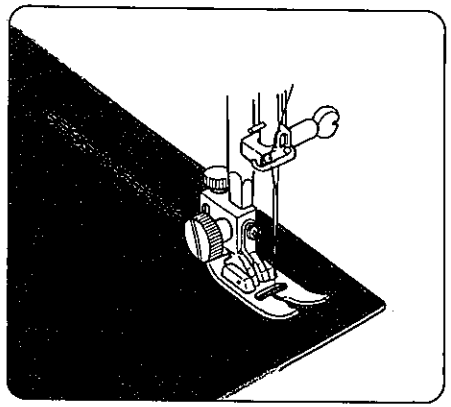
模様

糸調子ダイヤル
オート

送りダイヤル
S. S.



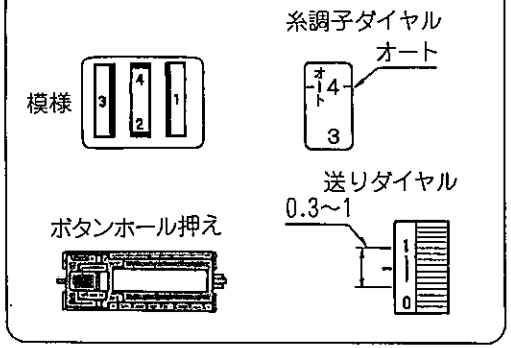
A基本押え



丈夫な縫い目なので、補強縫いに便利です。

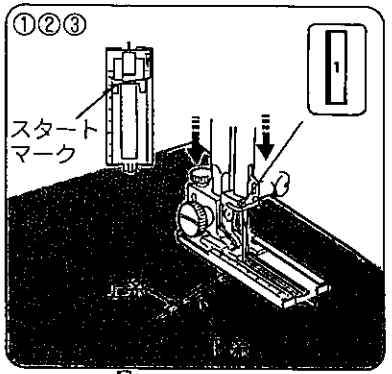
●ボタン穴かがり(ボタンホール)

《ミシンのセット》

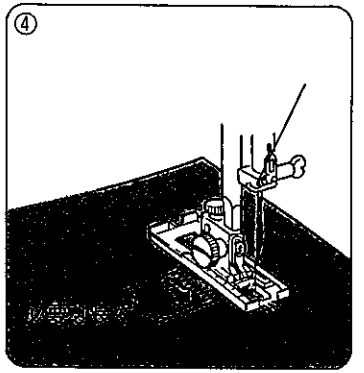


＊縫うものと同じ布で試し縫いをして、セットを確かめましょう。

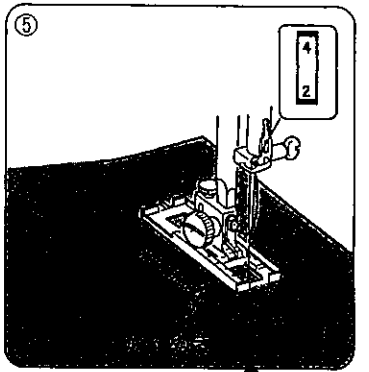
＊伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地をはってください。



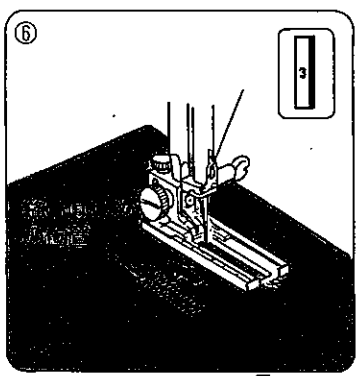
①模様 [1] を選びます。
②上糸を押えの下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
③縫いはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。



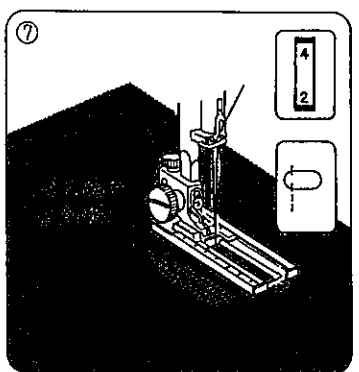
④必要な長さだけ縫い、ミシンを止めます。



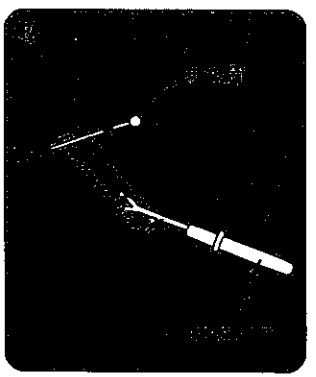
⑤針をあげて模様 [4/2] を選びます。かんぬきを5針くらい縫い、ミシンを止めます。



⑥針をあげて模様 [3] を選びます。縫いはじめの位置まで縫い、ミシンを止めます。

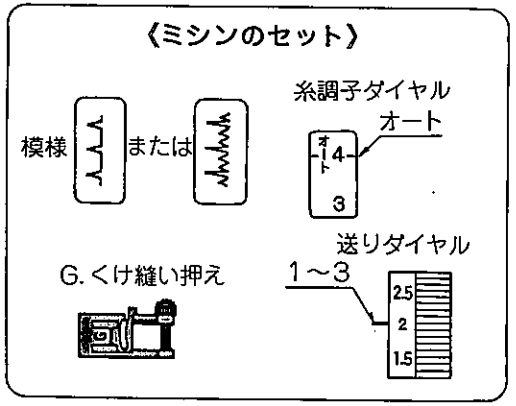


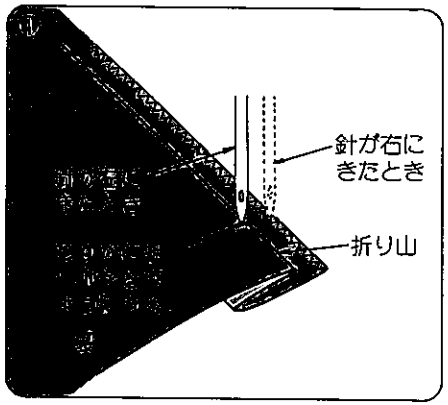
⑦針をあげて模様 [4/2] を選びます。かんぬきを5針くらい縫ったら、模様 [↩] を選び、数針止め縫いをします。



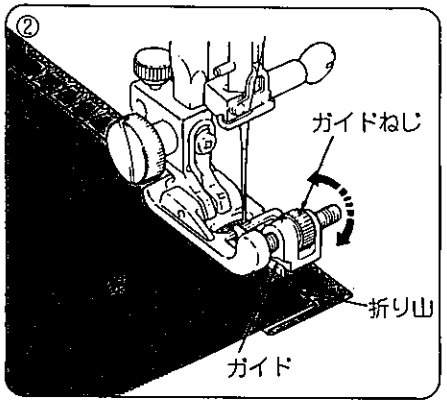
⑧かんぬきの内側にまち針を渡して、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

○くけ縫い(まつり縫い)

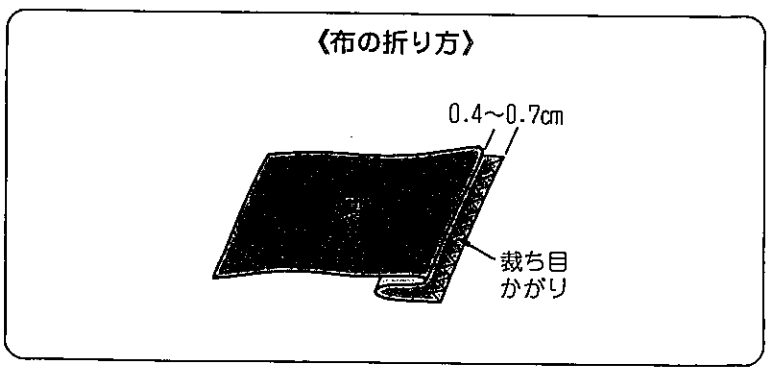


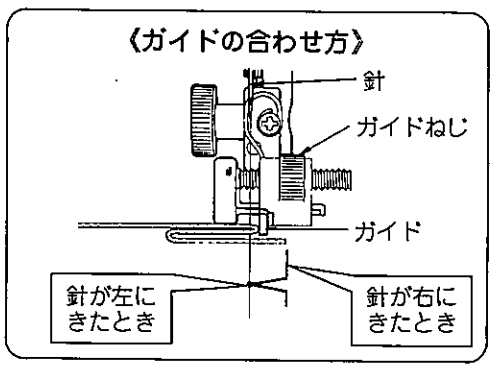


①針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押え上げをさげます。



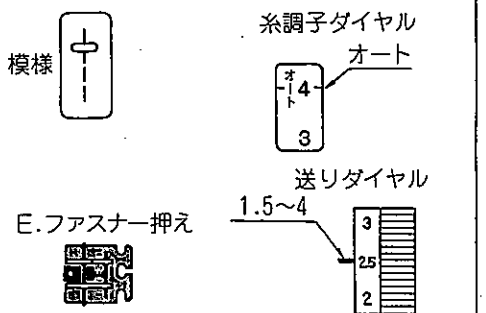
②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫います。



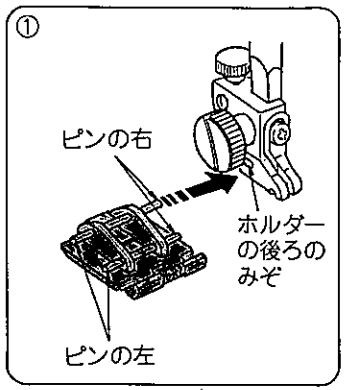


●ファスナーつけ

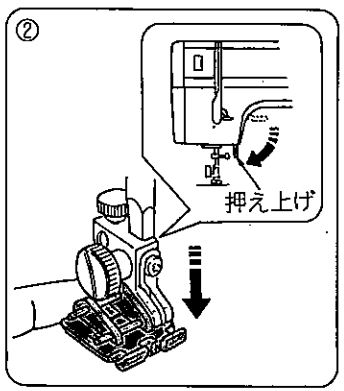
《ミシンのセット》



★ファスナー押えのつけ方



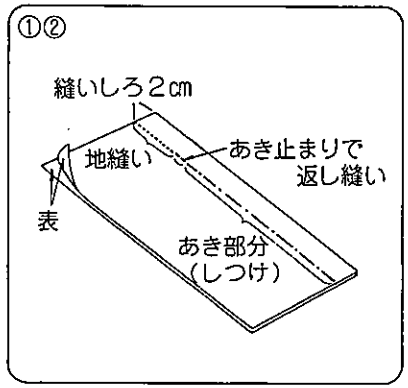
①押えの後ろのピンを押えホルダーの後ろのみぞに掛けます。



②指で軽くささえながら、静かに押え上げをさげます。

＊ファスナーのむしの左側を縫うときはピンの右を、むしの右側を縫うときはピンの左を、ホルダーのみぞにとりつけます。

★準備

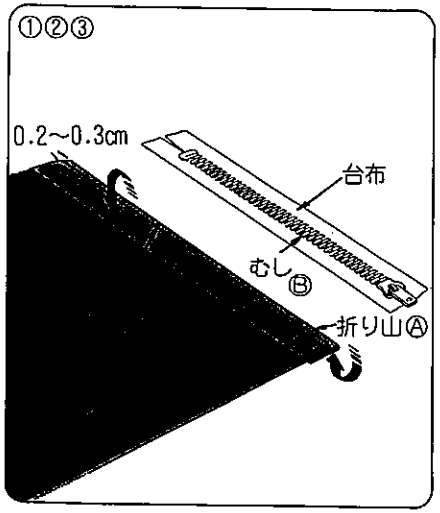


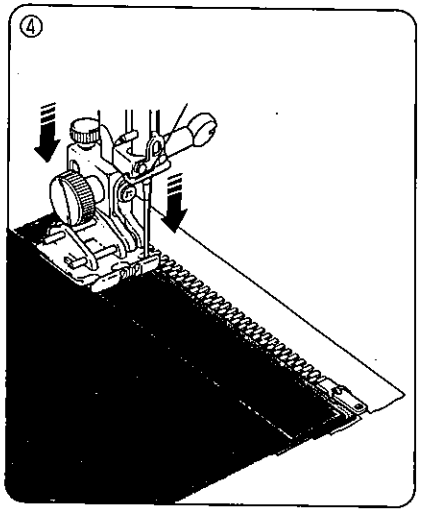
①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをし数針返し縫いをします。

②あき部分は、しつけをしておきます。

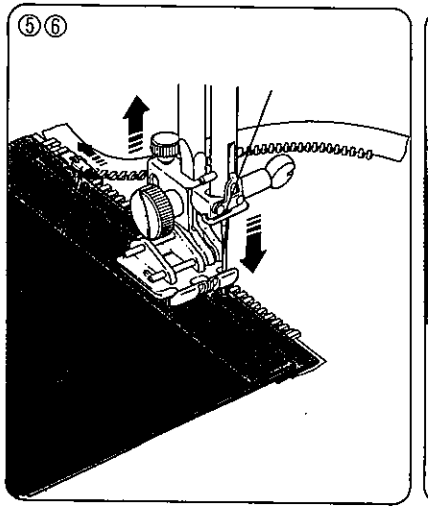
＊しつけ部分は上糸調子を弱くして送りダイヤルを最大にして縫い、糸を7～8cm残して切ります。

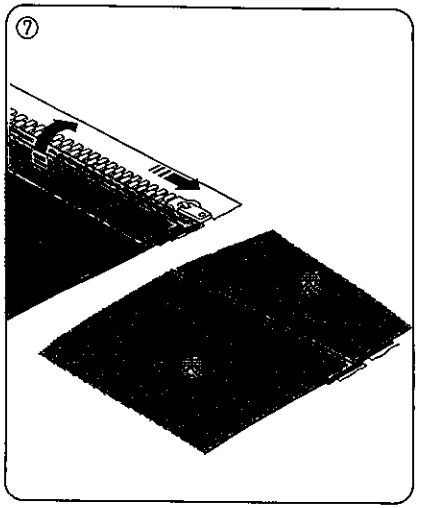
★縫い方



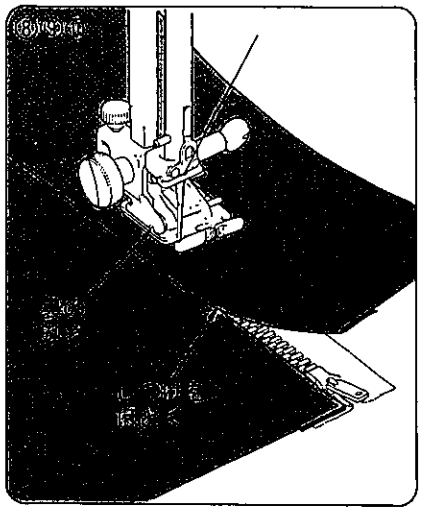


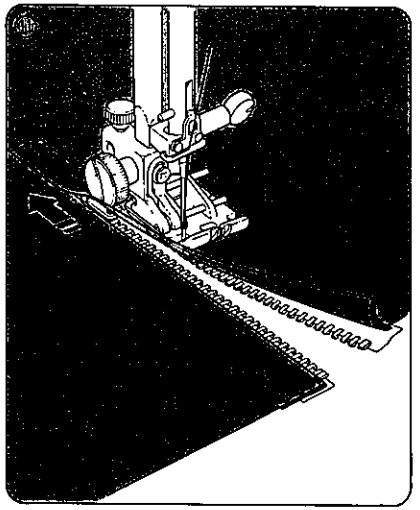
①上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返します。
②下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2～0.3cm出して、下に折り返します。
③ファスナーのむしⒷを、折り山Ⓐにそわせて、布をファスナーの台布にのせます。
④押えのピンの右を押えホルダーに取りつけます。
縫いはじめの位置に針をさし、押え上げをさげて縫います。





⑤押えがスライダーにあたる手前で、ミシンを止めます。
⑥はずみ車をまわして針をさげ、押え上げをあげます。スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。
⑦スライダーをとじ、布をひらいて、表にします。





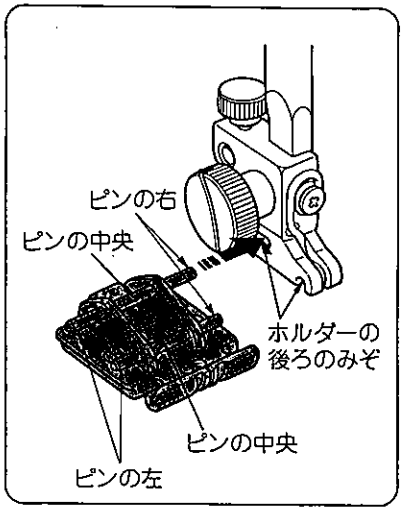
⑧押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、布の上から押えの裏のみぞにファスナーのむしをあてて縫います。

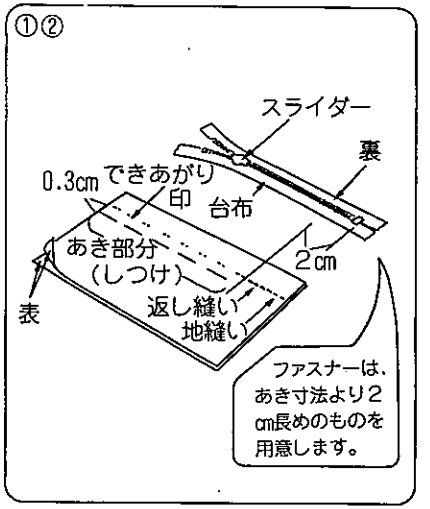
⑨押えがスライダーにあたる手前でミシンを止めます。

⑩針を布にさしたままで、押え上げをあげてしつけ糸をほどきます。

⑪スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りを縫います。

★コンシールファスナーつけ　★準備





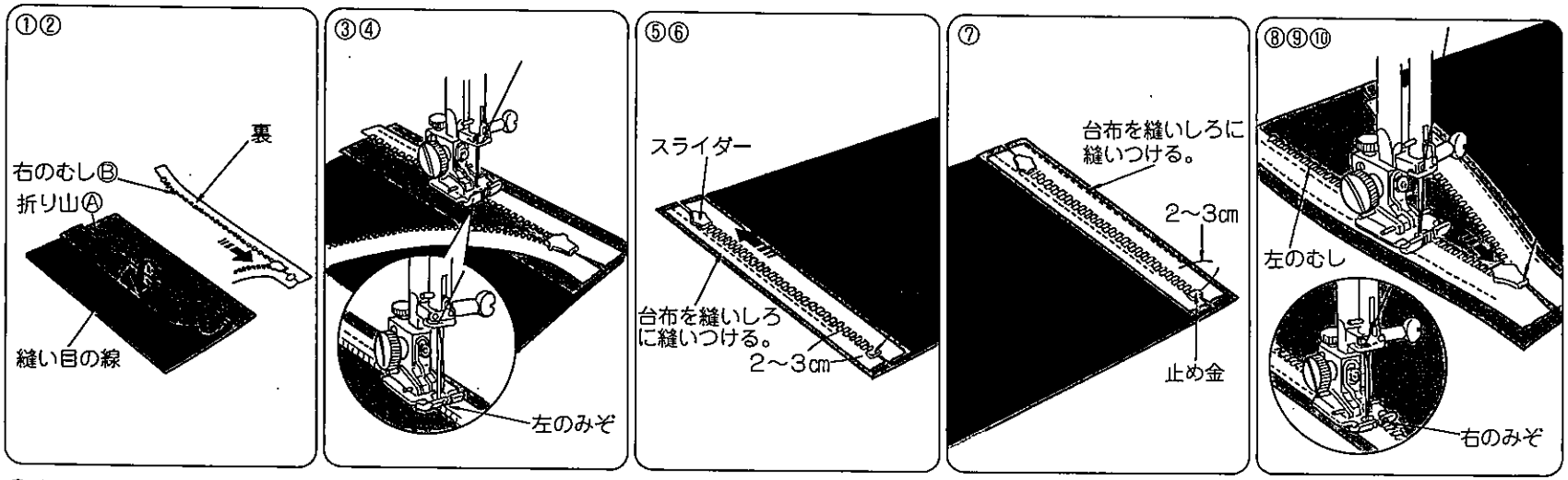
＊ミシンのセットは26ページをごらんください。

＊むしの左側と右側を縫うときはピンの中央を、ファスナーの台布の左側を縫うときはピンの右を、台布の右側を縫うときはピンの左を、ホルダーのみぞにとりつけます。

①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをし数針返し縫いをします。

②あき部分は、地縫い線（できあがり印）から、0.3cm内側にしつけをします。

★縫い方



①上の布の縫いしろを、縫い目の線で身頃側へ折り返します。

②ファスナーをひらいて裏返しにし、右のむしⒷを、折り山Ⓐにあてておきます。

③押えのピンの中央を押えホルダーにとりつけ、右のむしを立てて押えの左のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えをやや右によせて押え上げをさげます。

④むしをおこしながら、あき止まりまで縫います。

⑤押え上げをあげて、スライダーをとじます。

⑥押えのピンの右を押えホルダーにつけかえ、ファスナーの下の身頃を右側に折り返して、左側の台布の端を縫いしろに、止め金から2～3cmのところまで縫いつけます。

⑦押えのピンの左を押えホルダーにつけかえ、ファスナーの下の身頃を左側に折り返して、右側の台布の端を縫いしろに、止め金から2～3cmのところまで縫いつけます。

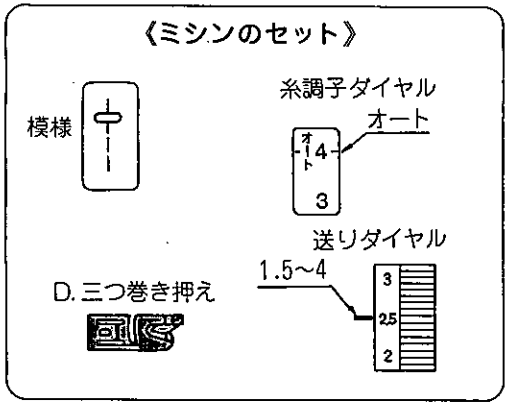
⑧押えのピンの中央を押えホルダーにつけかえ、しつけをほどきます。ファスナーの下の身頃を右側に折り返して、スライダーを止め金までいっぱいにひらきます。

⑨左のむしをおこして押えの右のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように押えをやや左によせて押え上げをさげます。

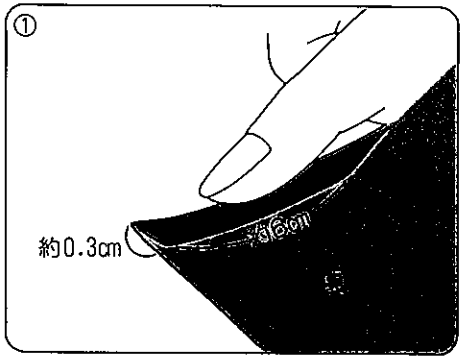
⑩むしをおこしながら、あき止まりまで縫います。

●三つ巻き縫い

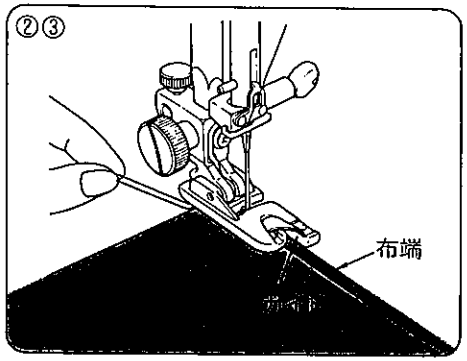
《ミシンのセット》



*折り目のつきにくい布は、アイロンで折り目をつけておくと縫いやすくなります。

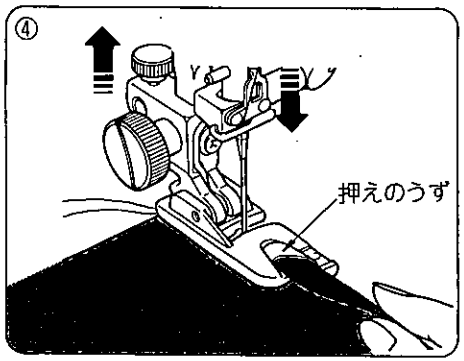


①布端の長さ約6cmを、約0.3cmの巾で2度折りまげます。

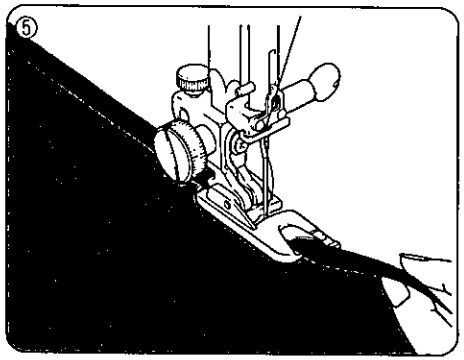


②縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。

③上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1～2cm縫います。

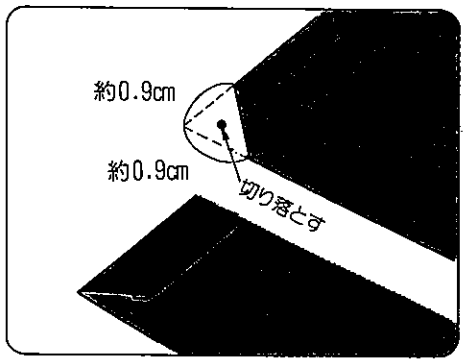


④はずみ車をまわして針をさし、押え上げをあげて、折りまげた布端を押えのうずの中に巻きこみます。



⑤押え上げをさげ、布端を立てて左寄りに引きぎみに持ちあげながら縫います。

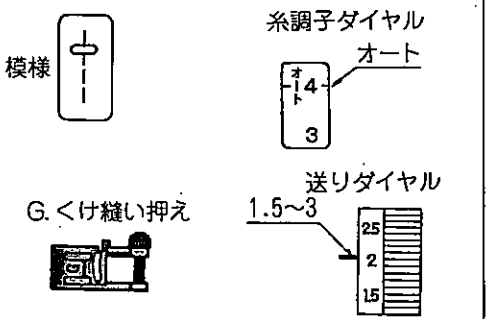
★布端のしまつ

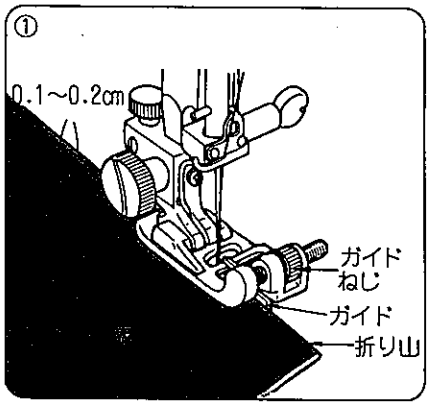


三つ巻き縫いの重なる部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくします。

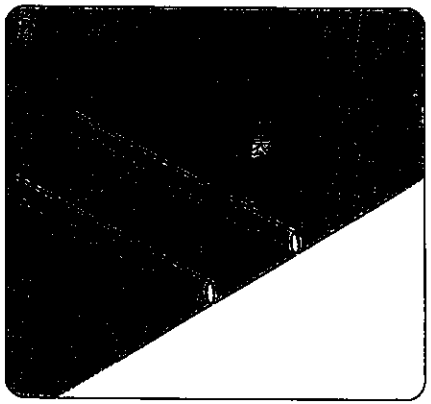
○ピンタック

《ミシンのセット》



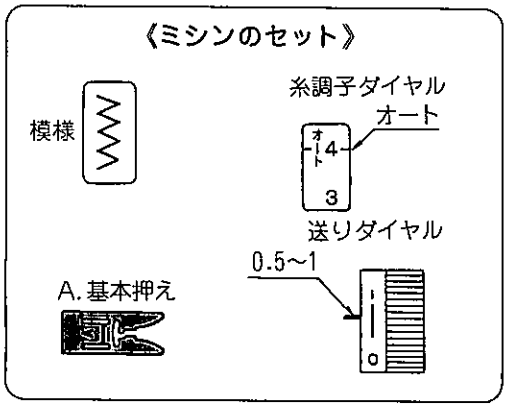


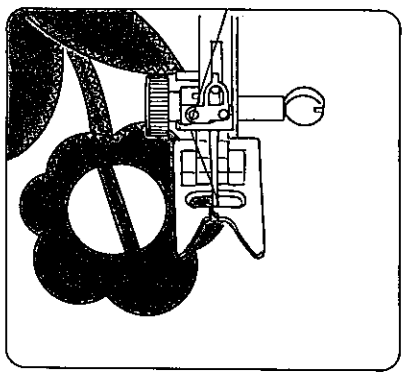
①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。
ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせて、縫います。



②折り山を片側に倒してアイロンで仕上げます。

○アップリケ

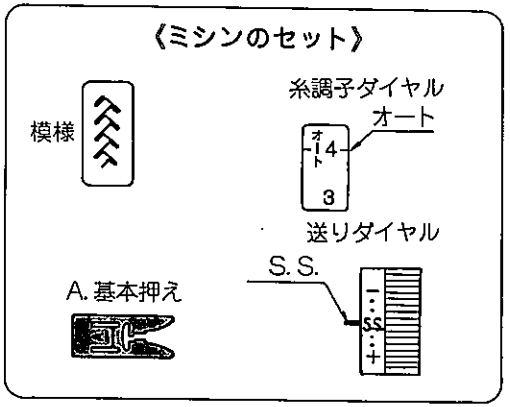


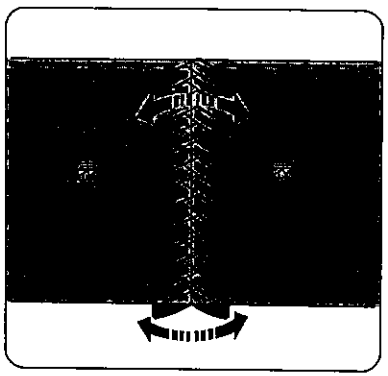


アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちを縫います。

＊急角度のところで向きをかえるときは、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

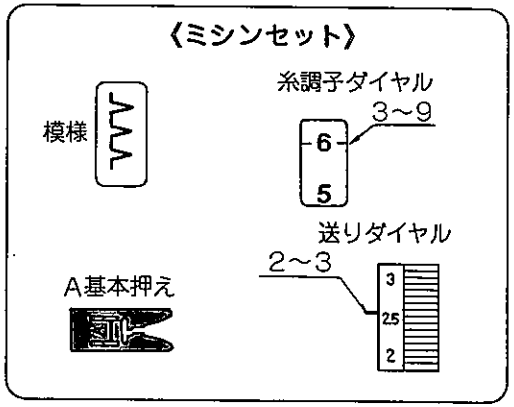
○パッチワーク



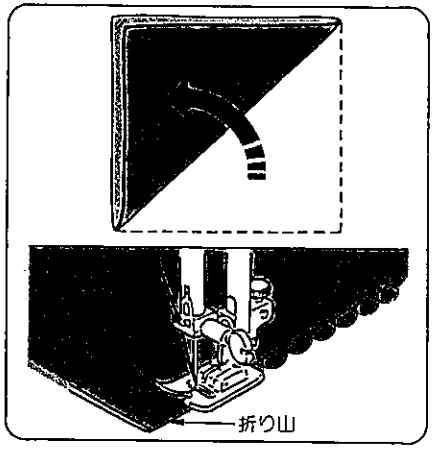


布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。
布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

○シェルタック

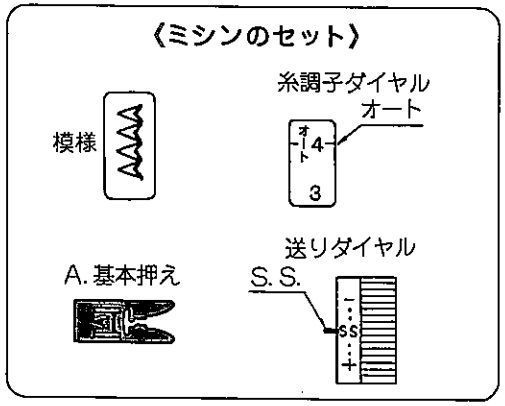


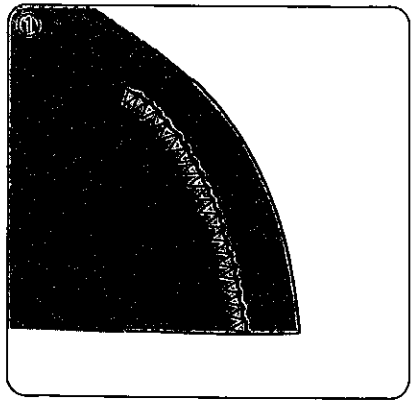
＊うすい布地を使用してください。
＊糸調子は、シエルタックの山がきれいに出るように強めに調節してください。
＊縫い終わったら糸調子ダイヤルを「オート」に戻します。



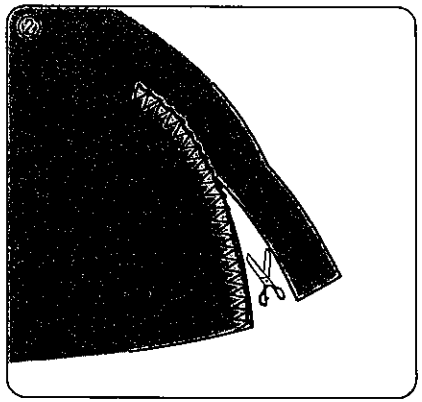
①布をバイアスに2つ折りにします。
②右の針落ちが、布の折り山のきわにおりるようして縫います。
③布をひらいて、アイロンで山を片側に倒します。

○貝形ふちかがり(ブランケットステッチ)



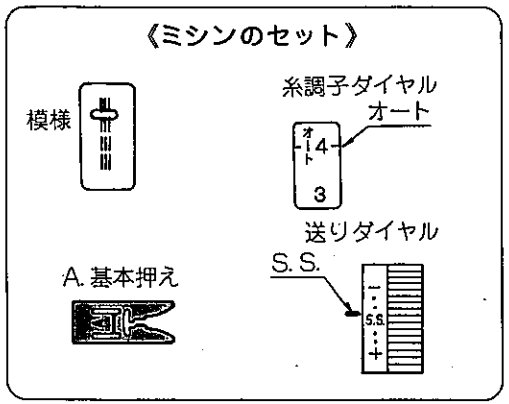


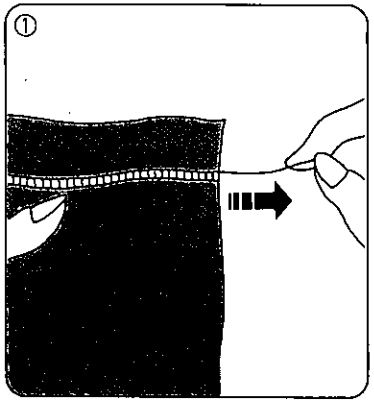
①布の表から、布端を1㎝くらい残して縫います。



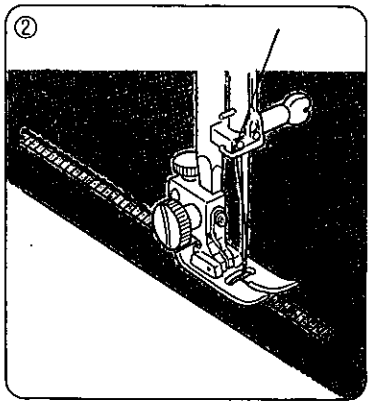
②糸を切らないように、布端を切り落とします。

○フリンジ縫い

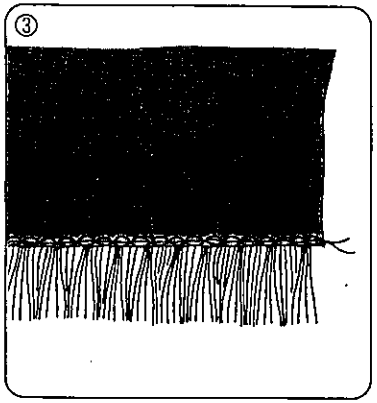




①フリンジの根元になる部分の織り糸を、1～2本抜きとります。



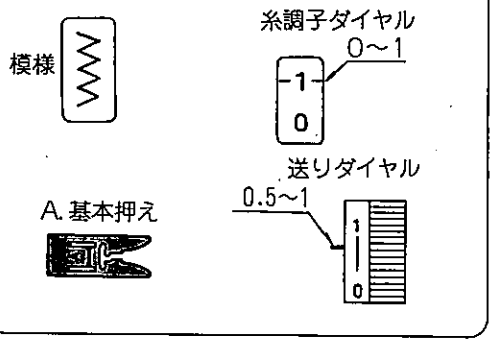
②織り糸を抜いた上を、縫います。



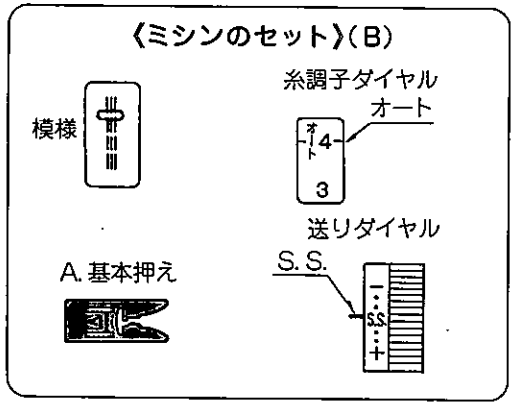
③フリンジする部分の織り糸全部を抜き、ふさを作ります。

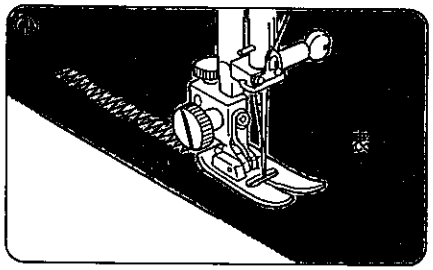
○糸を使ったフリンジ

《ミシンのセット》(A)



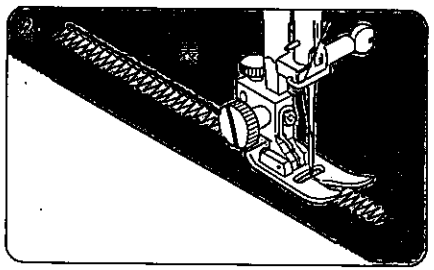
《ミシンのセット》(B)





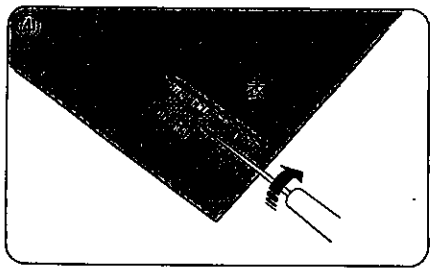
①(A)にセットして縫います。

＊上糸が布の裏にほぼ全部出るように上糸調子を弱くしてください。



②(B)にセットして、①の縫い目の一方端を、三重縫いします。

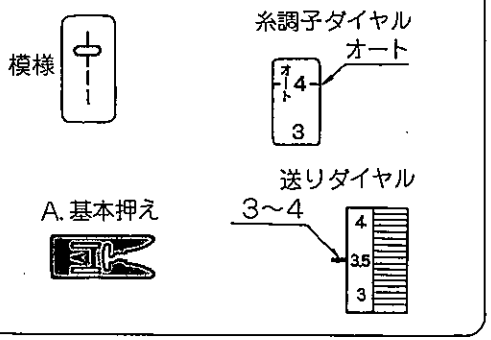
③①で縫った下糸を、引き抜きます。

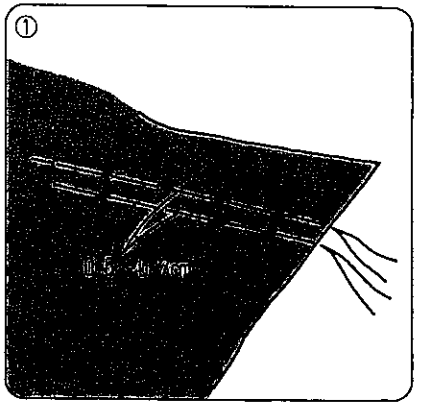


④太い針か、目ほどきの背で、上糸を布の表に引きあげ、アイロンで仕上げます。

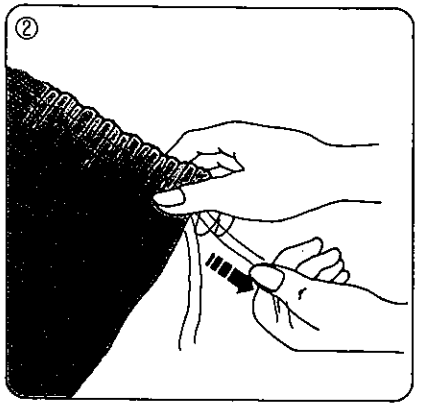
○ギャザーよせ

《ミシンのセット》



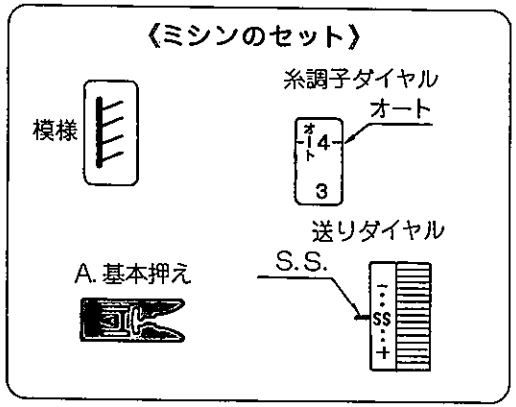


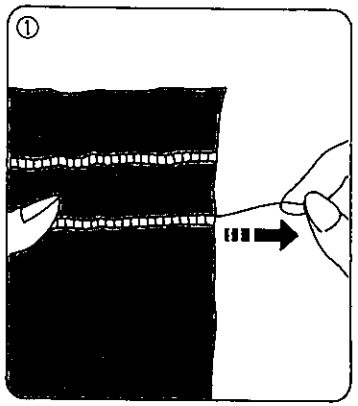
①0.5～0.7cmの間かくで2本平行に縫います。



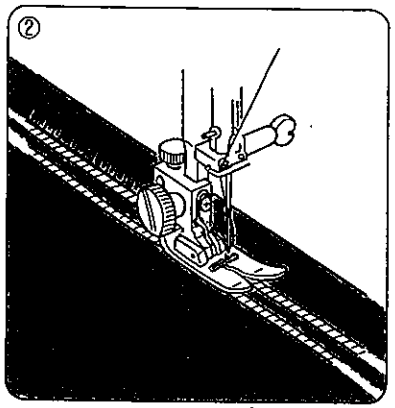
②布を軽くつまみ、上糸はそのままにして、下糸を両側から引き、平均にひだをよせます。

○ドロンワーク

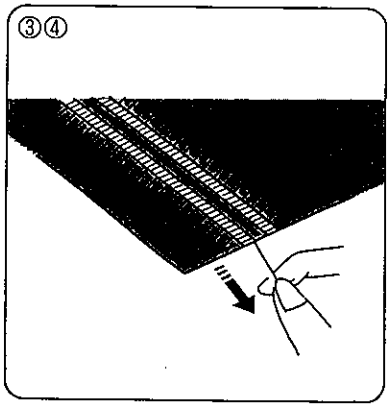




①ドロンワークする部分の両わきの織り糸を１～２本抜きとります。

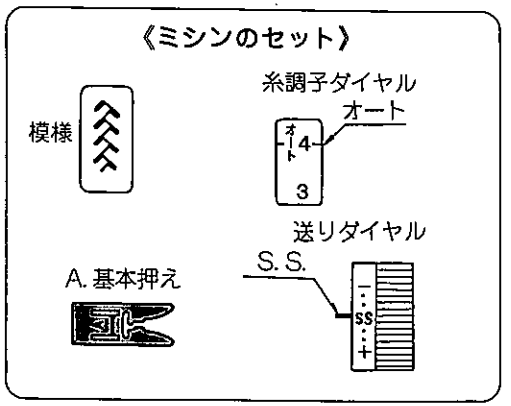


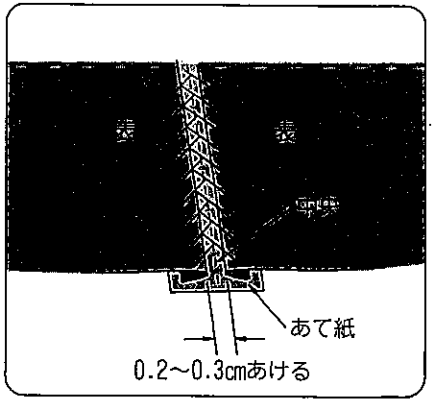
②織り糸を抜いた右側を縫います。



③布をまわしてもう一方を同じように縫います。
④ドロンワークする部分の織り糸全部を抜きとります。

○ファゴティング





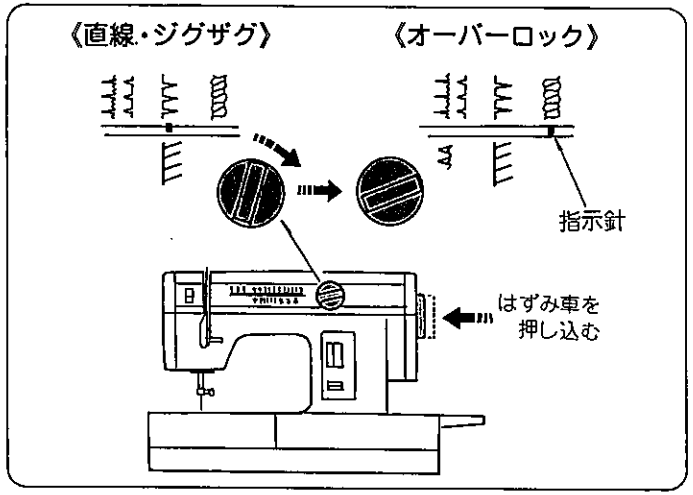
①布端と布端の間かくを0.2～0.3cmあけて、裏にあて紙をします。
②布の表から、間かくの中央を中心にして縫います。
③あて紙をとります。

○準　備

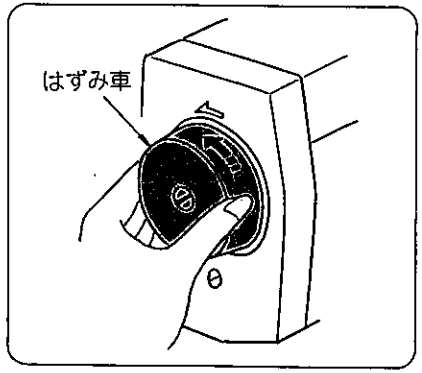
《オーバーロックへの切りかえ方》

はずみ車の外周を持って止まるまで押込み、その状態で模様選択ダイヤルをまわして、切りかえます。

＊照明ランプも自動的に、切りかわります。



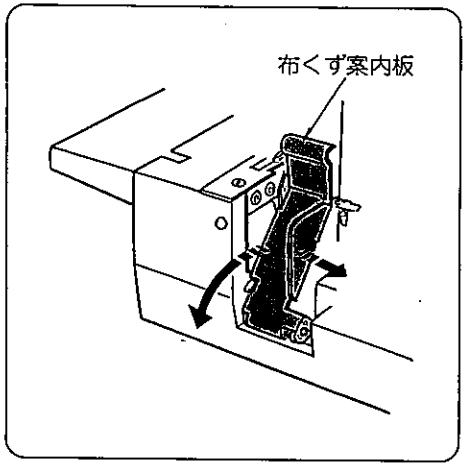
＊電源のつなぎ方、速さの調節のし方、ミシンの向きのかえ方は7～8ページを参照してください。



《はずみ車の回転方向》

オーバーロック縫いのとき、はずみ車は、図のように矢印方向にまわします。反対方向にまわすと、糸がからんで縫えなくなります。

○布くず案内板のあけ方、しめ方

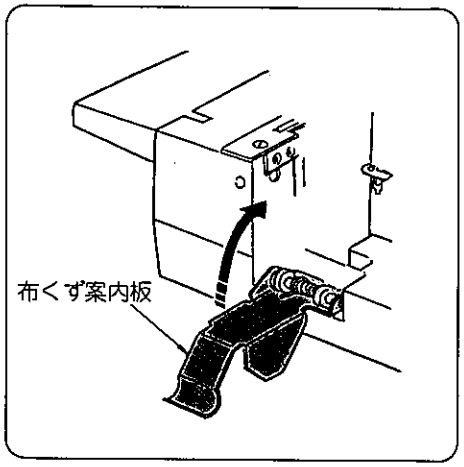


★あけ方

右いっぱいによせて、手前に引きます。

＊縫うとき、布くず案内板は、必ずしめておいてください。

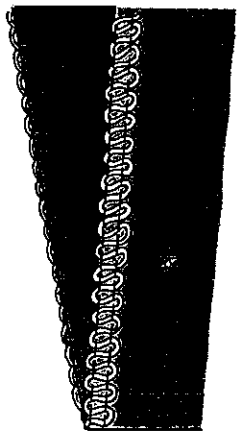
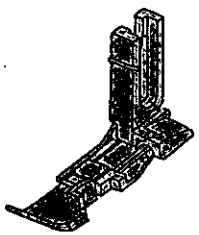
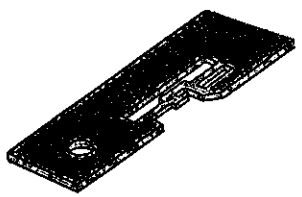
＊布のふちをメスで切断しながら縫うので、布の端の切りくずが手前に出ます。

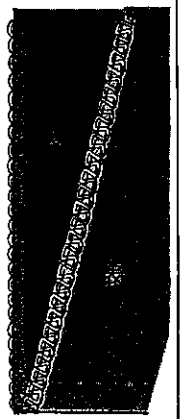
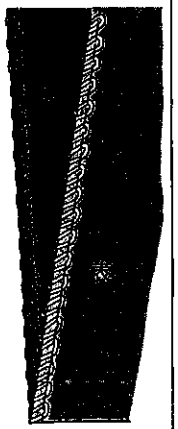
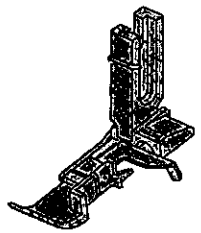
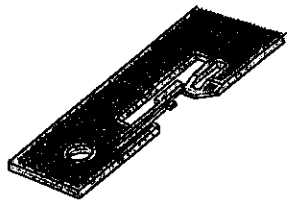


★しめ方

あげて軽く押しつけます。

○オーバーロック縫いの種類

	ふちかがり縫い
縫い目	
押え 針板	普通縫い押え  普通縫い針板 
送り目盛	3
参照ページ	50～51ページ

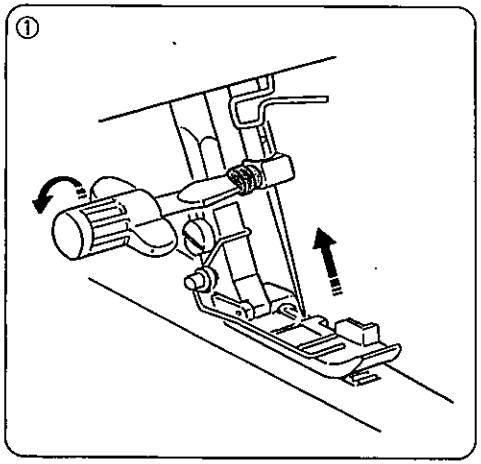
	巻き縫い	細ロック縫い	ピコ縫い
縫い目			
押え 針板	巻き縫い押え  巻き縫い針板 		
送り目盛	1	1	3
参照ページ	52～54ページ		

●布に適した糸や針を選ぶ目安《ふちかがり縫い》

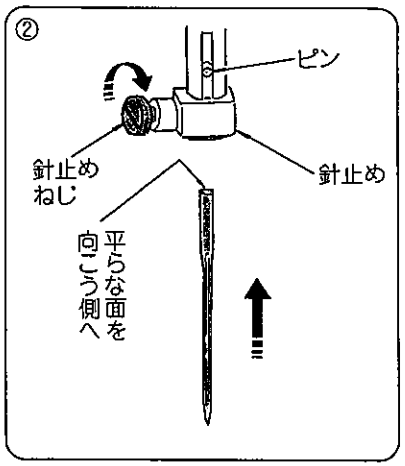
布の種類		糸	針
うすい布	オーガンジー、ジョーゼット、ローン、クレープデシン、洋服裏地	綿糸 80番～100番 絹糸 80番～100番 化繊糸 80番～100番	HA-1 11番
普通の布	木綿地、トリコット、リンネル、サテン、一般服地	綿糸 60番～100番 絹糸 50番～100番 化繊糸 60番～100番	HA-1 11番～14番
厚い布	ツィード、コート地、デニム、ドスキン、厚手服地	綿糸 40番～60番 絹糸 40番～60番 化繊糸 40番～60番	HA-1 14番～16番
ニット	メリヤス、編地	綿糸 60番～80番 化繊糸 60番～90番	HA-1 11番～14番

*巻き縫い、ピコ縫い、細ロック縫いのときは、53ページを参照してください。

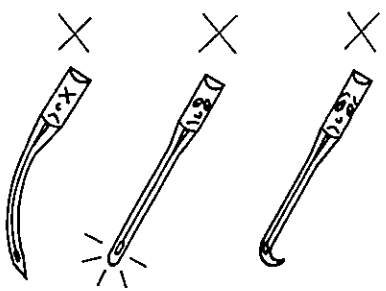
○針のとりかえ方



①針をあげ、針止めねじをゆるめて、針をはずします。

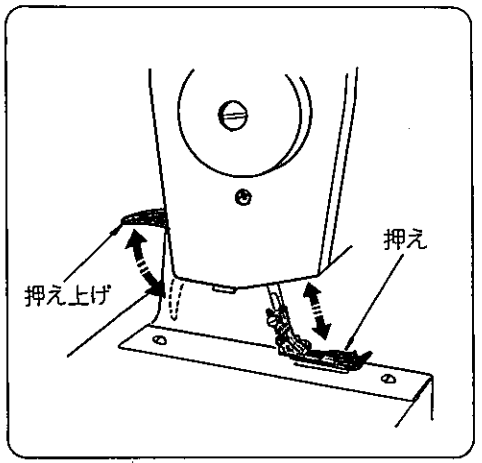


②針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めにさしこみ、針止めねじをかたくしめます。



＊全体にまがってしまったものや、針先のつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。

○押えのあげ方、さげ方



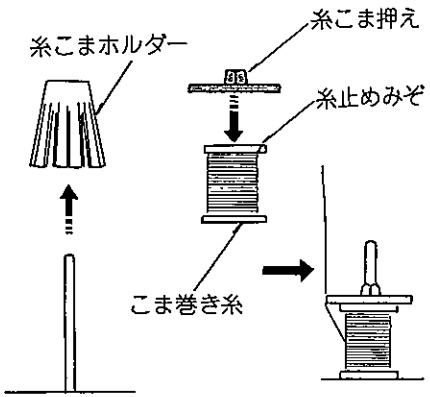
押え上げをあげさげして、押えをあげたり、さげたりします。

＊一般に、糸を通しなおすときと、厚い布を縫うとき以外は、押えをさげたままにして使用します。

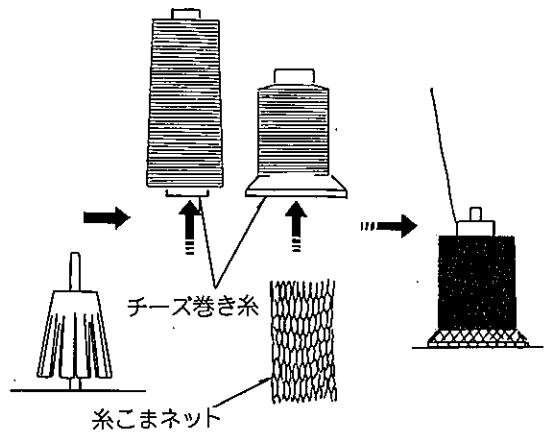
＊直線・ジグザグの場合と異なり、押えをあげても、糸調子は、ゆるみません。

○糸こま押え、糸こまネットのつけ方

《こま巻き糸》



《チーズ巻き糸》

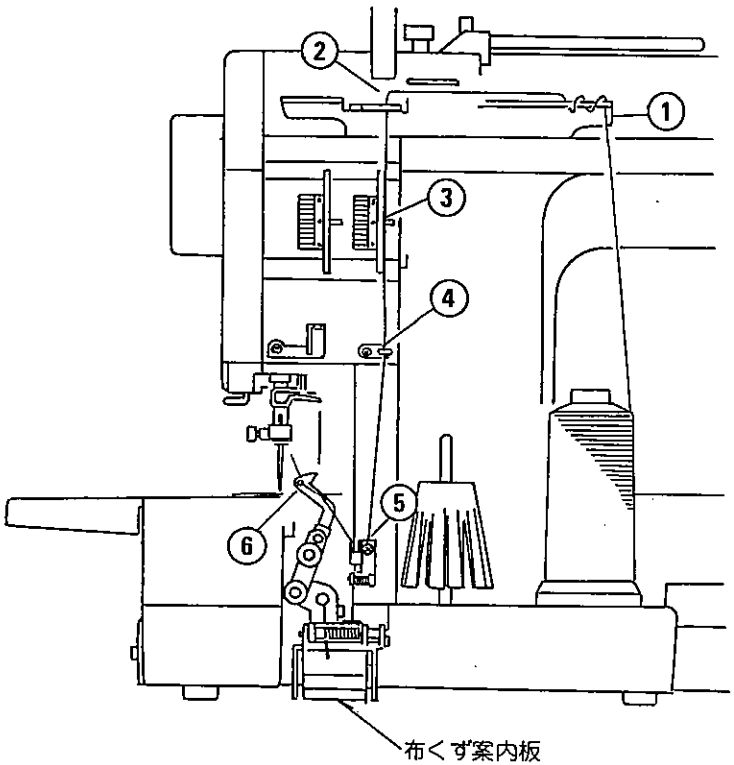


このミシンはこま巻き糸と、チーズ巻き糸が使用できます。

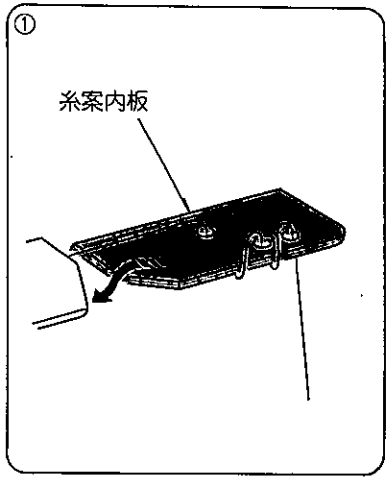
＊こま巻き糸を使用するときは、糸こまホルダーをはずし、糸巻きの糸止めみぞのあるほうを上にしてつけ、糸こま押えをはめてください。

＊化繊糸などの巻きがくずれやすい糸を使用するときは、付属の糸こまネットを下からセットしてご使用ください。

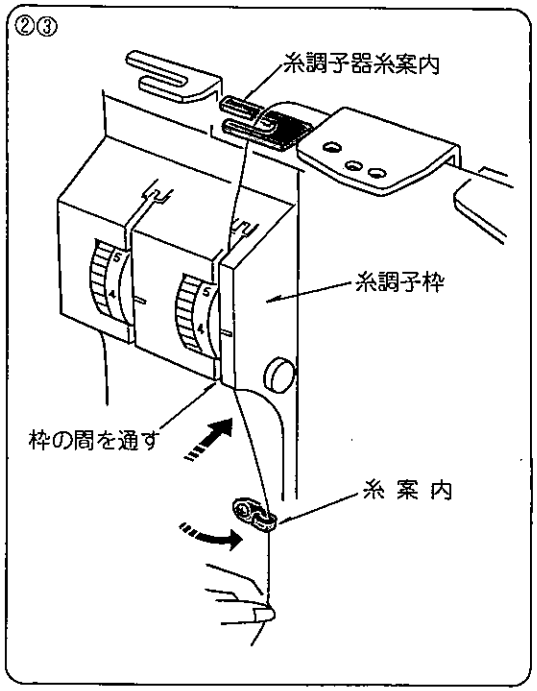
○ルーパー糸の通し方



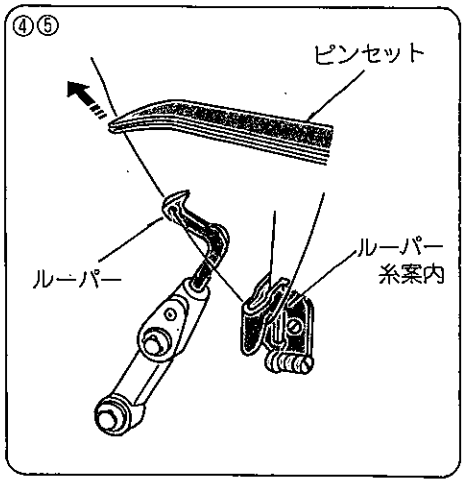
＊糸は必ずルーパー糸を掛けてから、次に針糸を掛けてください。



①糸こまから糸を引き出して、糸案内板の右側の3つの穴に通します。

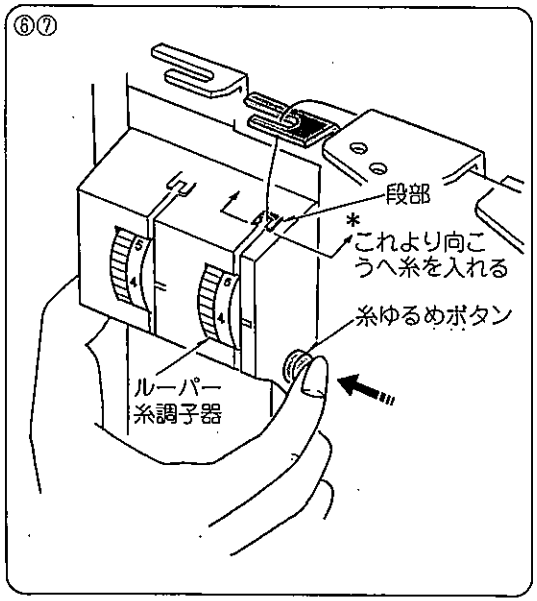


②糸調子器糸案内に掛けます。
③糸調子枠の間を通し糸案内に掛けます。



④布くず案内板をあけて、ルーパー糸案内に通します。

⑤はずみ車をまわし、ルーパーに糸を通しやすい位置にして糸を通し、ピンセットで、糸端を引出します。

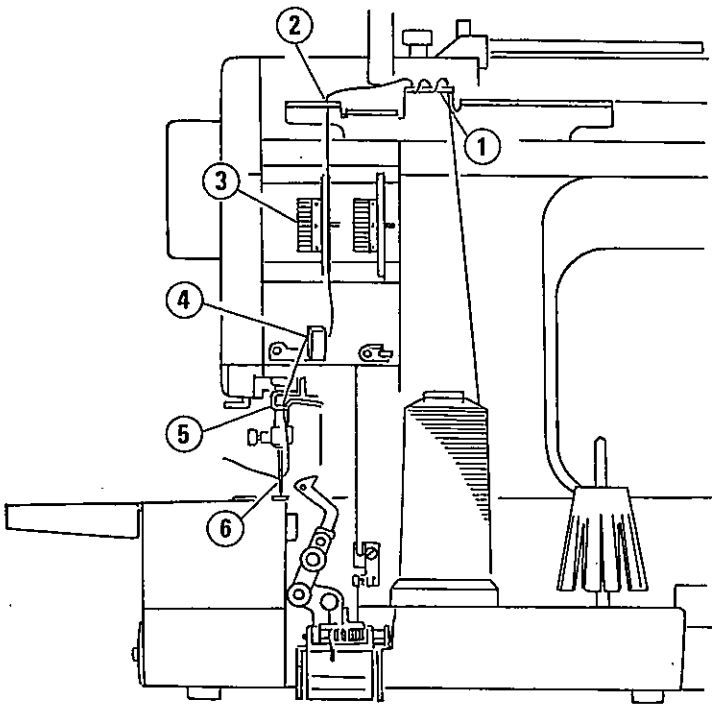


⑥左手で糸端を押えの下から向こう側へ引き出しながら右手で糸ゆるめボタンを一杯まで押してルーパー糸調子器に糸を通します。

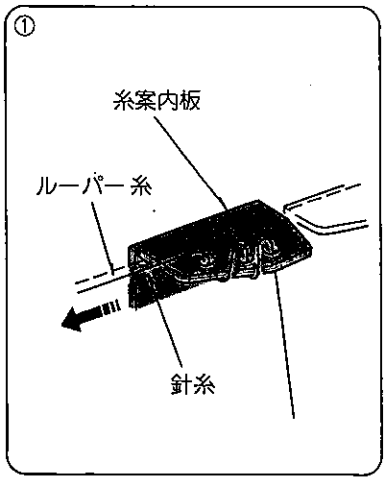
⑦布くず案内板をしめます。

＊ルーパー糸調子器に通した後、糸調子枠の段部より向こうへ糸が入っていることを確認して下さい。

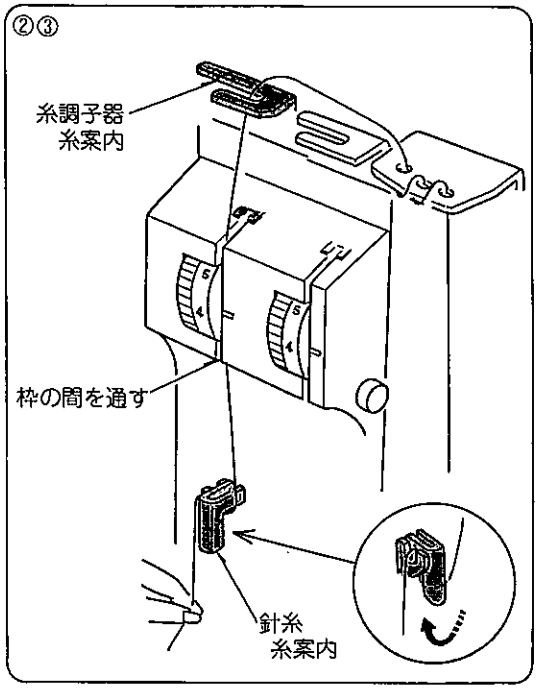
○針糸の通し方



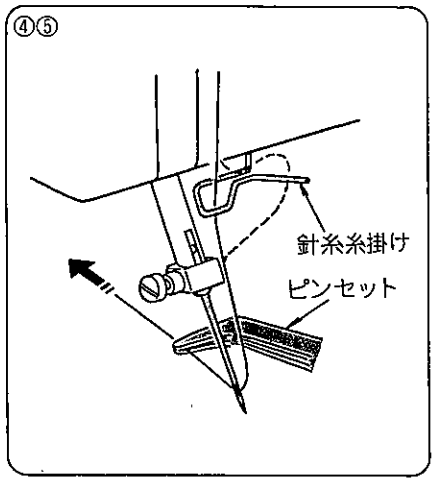
＊糸は必ずルーパー糸を掛けてから、次に針糸を掛けてください。



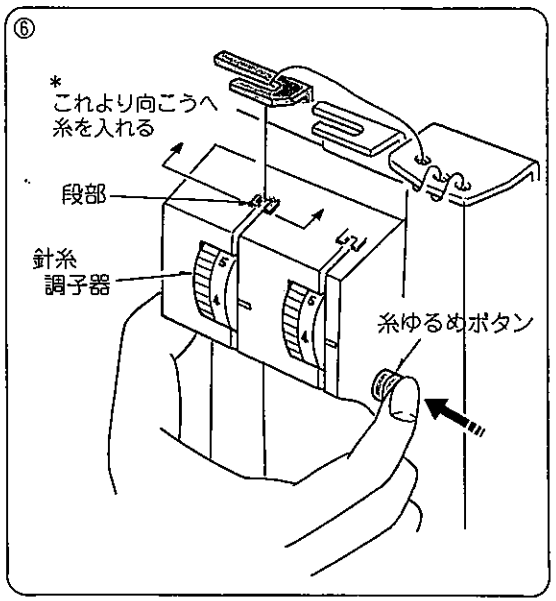
①糸こまから糸を引き出して、糸案内板の左側の３つの穴に通します。



②糸調子器糸案内に掛けます。
③糸調子枠の間を通し針糸糸案内に掛けます。

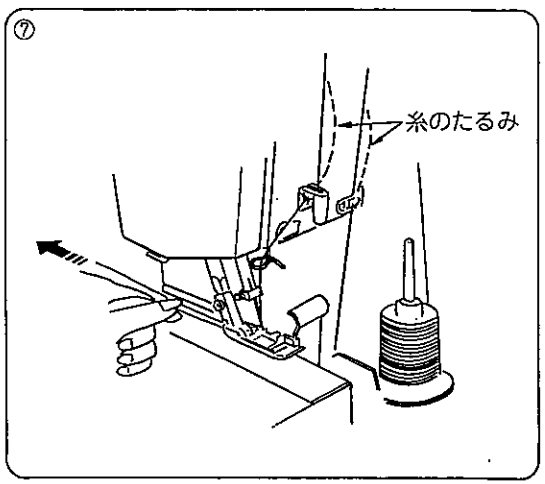


④針糸糸掛けに掛けます。
⑤針に糸を通し、ピンセットで糸端を引き出します。



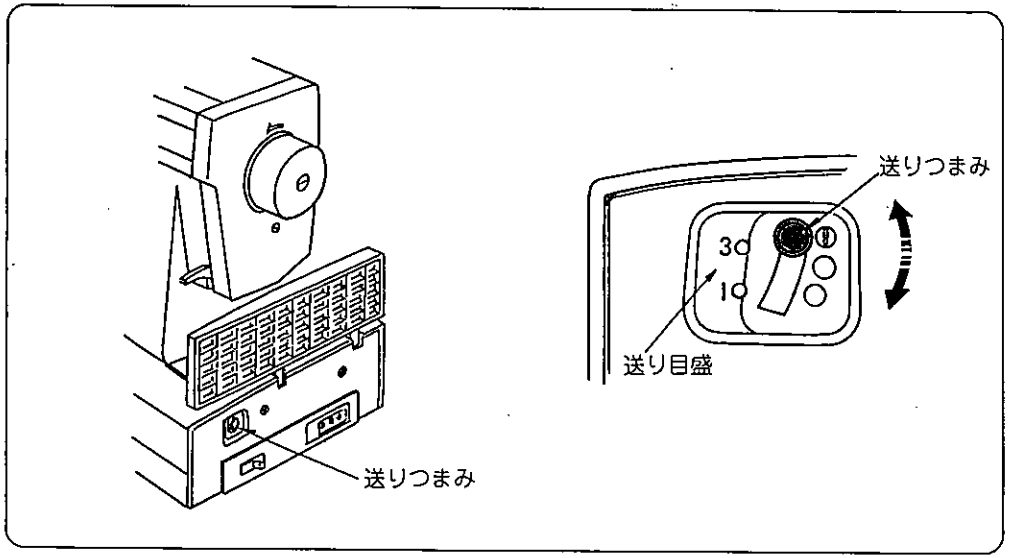
⑥左手で糸端を押えの下から向こう側へ引き出しながら右手で糸ゆるめボタンを一杯まで押して針糸調子器に糸を通します。

＊針糸調子器に通した後、糸調子枠の段部より向こうへ糸が入っていることを確認して下さい。



⑦ルーパー糸・針糸のたるみがないよう押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

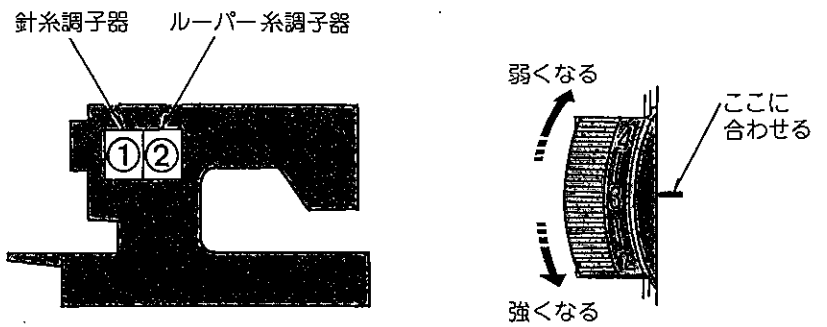
○送り目盛の選択のし方



○送り目盛は、オーバーロック縫いの種類（39ページ参照）に応じて選択します。
選択のし方は送りつまみを押しながら「1」または「3」に動かします。

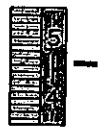
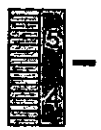
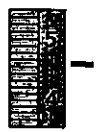
○糸調子の出し方

★糸調子器



○糸調子は、針糸調子器とルーパー糸調子器で調節します。

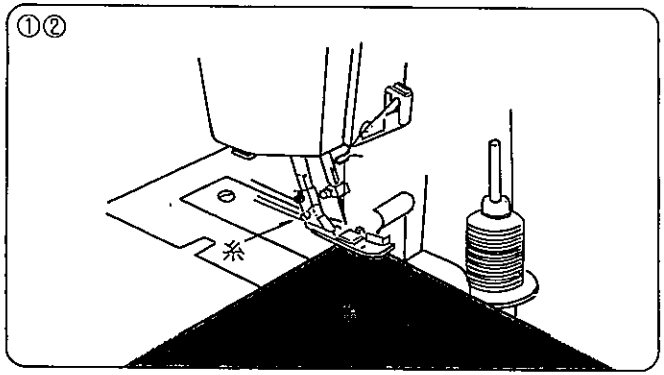
★糸調子器の目安

	針糸調子器	ルーパー糸調子器
ふちかがり縫い		
巻き縫い		
ピコ縫い		
細ロック縫い		

○糸調子は、布の種類や糸の太さなどによって異なりますから、布や糸に合った糸調子を出してください。

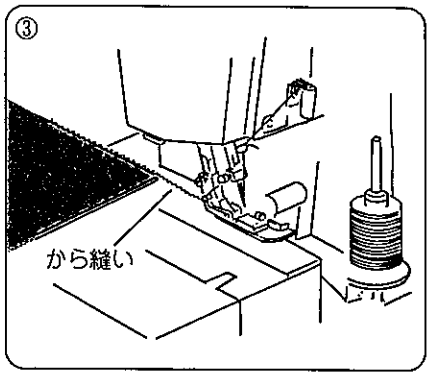
○試し縫いをしましょう

★縫いはじめ

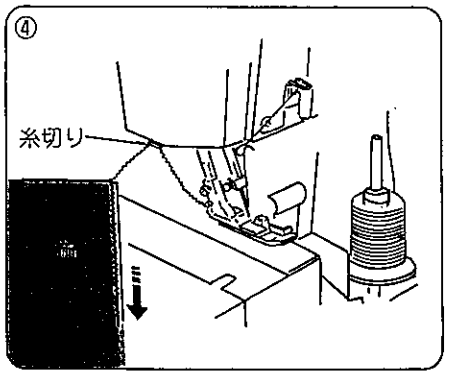


①布をセットして押え上げをさげます。
②はずみ車を2～3回静かに回し、糸のからみぐあいを確かめ、ゆっくり縫い始めます。
布は自動的に送られますから、手は布地を縫いたいと思う方向に導くだけにしてください。

★縫いおわり

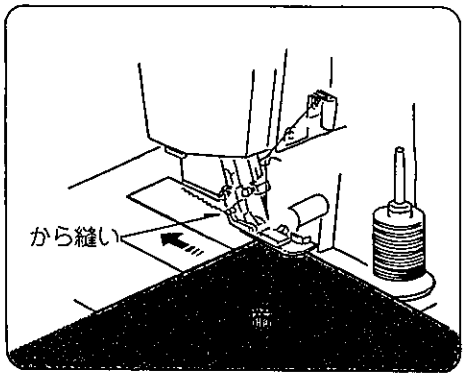


③布の端まで縫いおわったら、そのままミシンを低速で回し、から縫いをします。



④布の端より2～3㎝残し、から縫いをした糸を糸切りか、はさみで切ります。

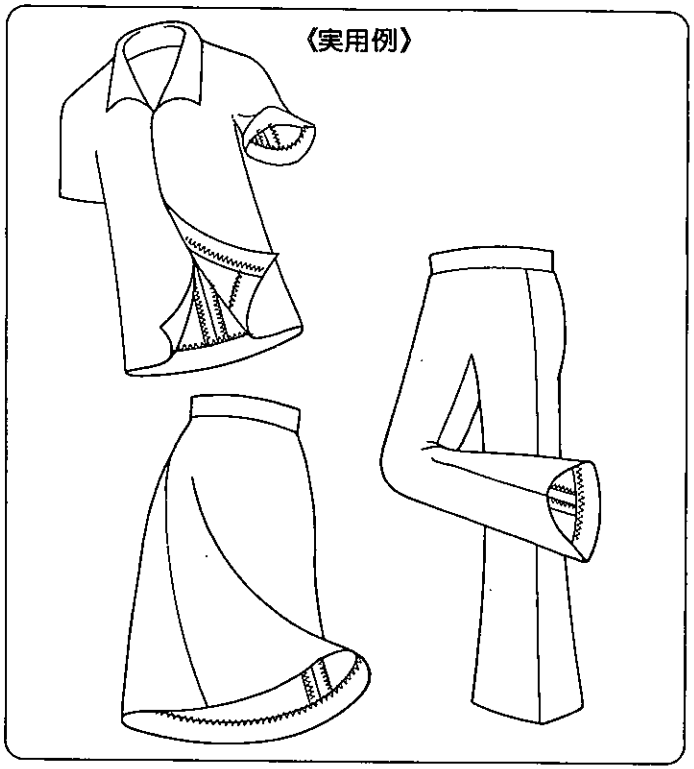
★つづけて縫うとき



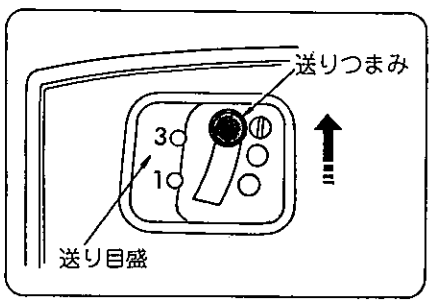
＊2本の糸調子のバランスが悪いと、から縫いがきれいにできないことがあります。このような場合には、から縫いされた糸を少し引きぎみにして縫うと、きれいにできます。

○押え上げをあげずに、そのまま次の布地を縫います。

○ふちかがり縫い

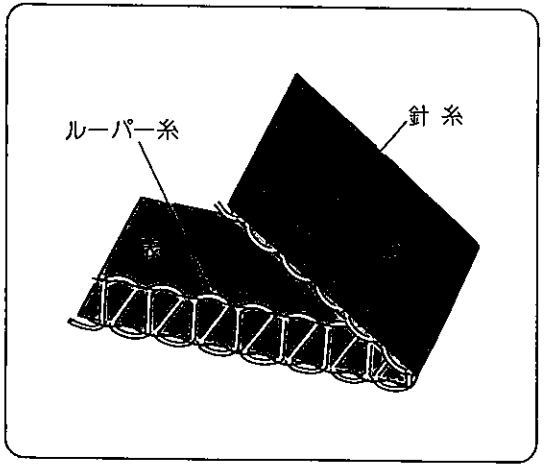


★送り目盛り



○送りつまみを目盛3に合わせます。

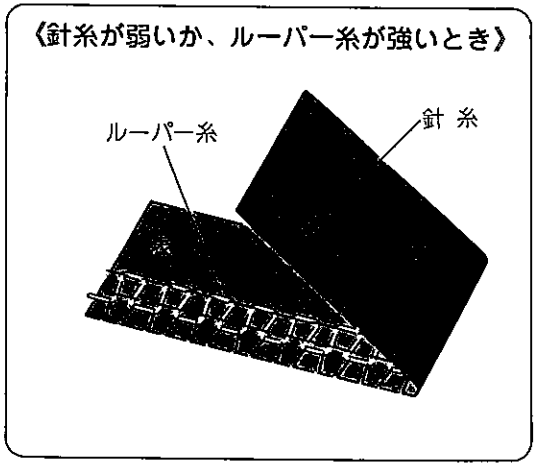
★正しい糸調子



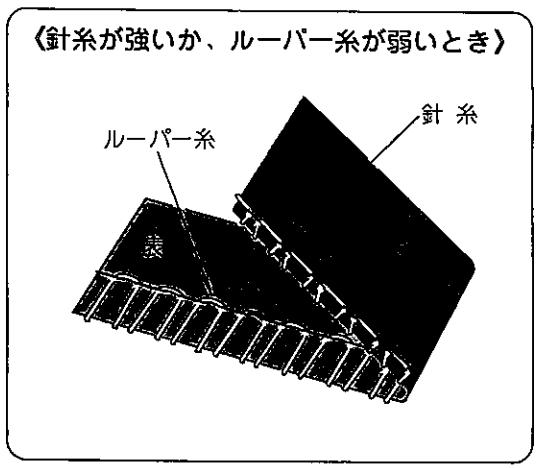
*針糸は布地の裏側に出ます。

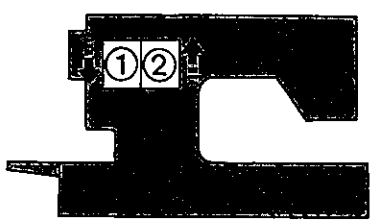
★糸調子の出し方

《針糸が弱いか、ルーパー糸が強いとき》

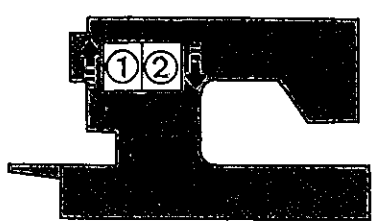


《針糸が強いか、ルーパー糸が弱いとき》





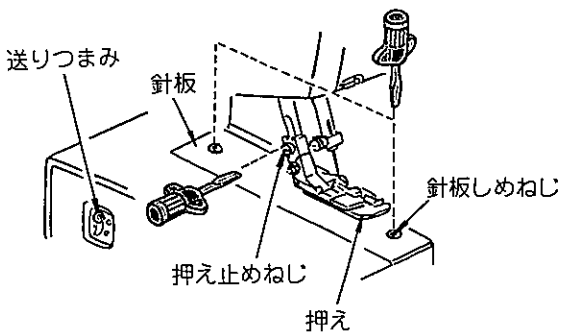
針糸調子器①を強くするか、
ルーパー糸調子器②を弱くし
てください。



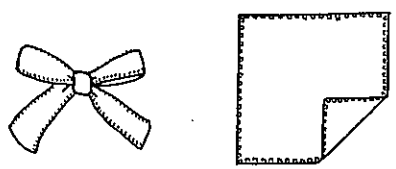
針糸調子器①を弱くするか、
ルーパー糸調子器②を強くし
てください。

○巻き縫い、ピコ縫い、細ロック縫い

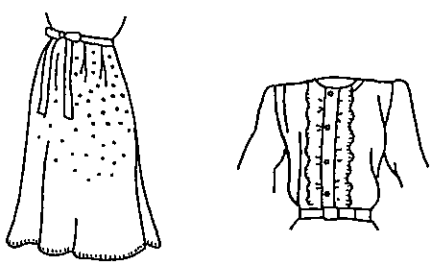
★準備



《実用例》



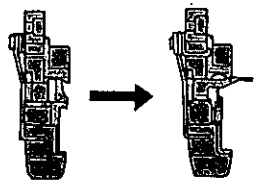
リボン・ハンカチのふちどり



スカートのすそとフリルのふちかがり

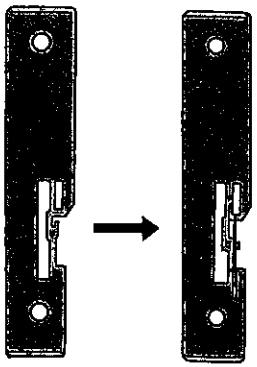
★押えの交換および針板の交換

①③



普通縫い押え　巻き縫い押え

②



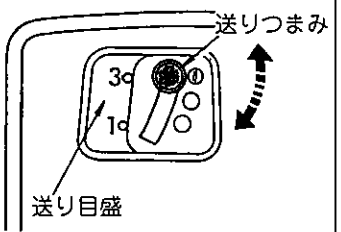
普通縫い針板　巻き縫い針板

①はずみ車をまわし、針を上にあげて、押え止めねじをゆるめ普通縫い押えをはずします。

③巻き縫い押えを、とりつけます。

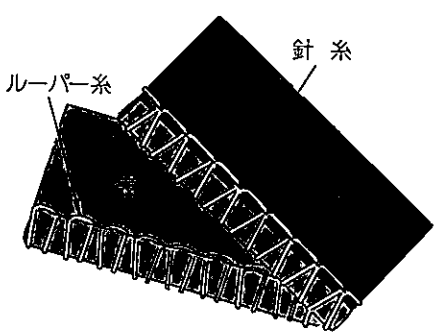
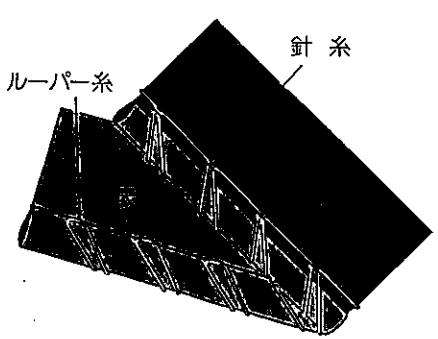
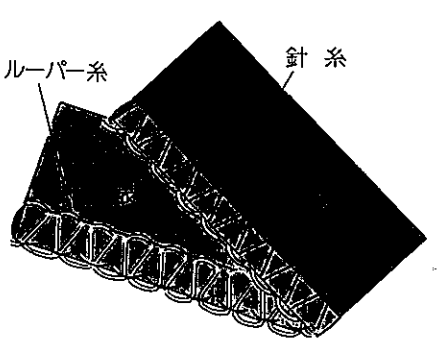
②2か所の針板しめねじをゆるめて、普通縫い針板をはずし巻き縫い針板にとりかえます。

★送り目盛



送りつまみを押しながら目盛をセットします。

★布と糸の種類と糸調子

布		巻き縫い	ピコ縫い	細ロック縫い
うすい布 オーガンジー、クレープデシン ローン ジョーゼット	針糸	化繊糸 ＃80～＃100　絹 糸 ＃50～＃100		
	ルーパー糸	ウーリーナイロン糸	ウーリーナイロン糸	ウーリーナイロン糸 化繊糸 ＃80～＃100 絹 糸 ＃50～＃100
	送り目盛	1	3	1
	正しい糸調子（縫い目）			

＊針は11番針が最適です。

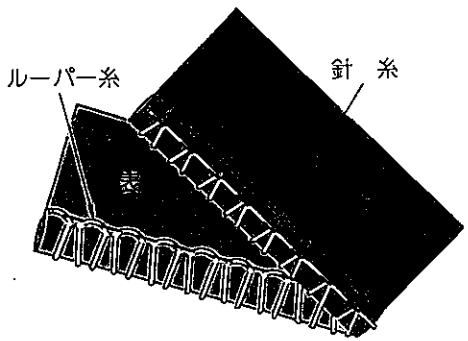
＊より美しい縫い目に仕上げるには、針糸に巻きロックミシン糸をご使用ください。

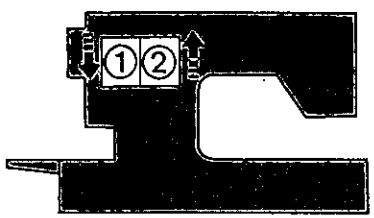
★糸調子の出し方

巻き縫い、ピコ縫い

＊細ロック縫いの糸調子の調節方法は、ふちかがり縫いと同じです。(51ページ参照)

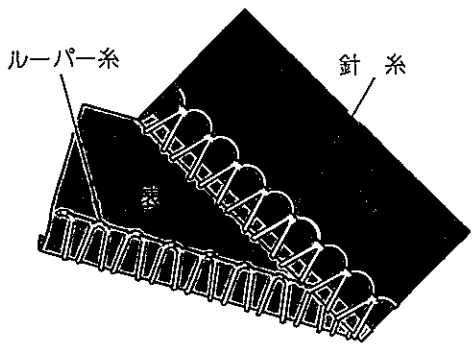
《針糸が弱い、ルーパー糸が強い》

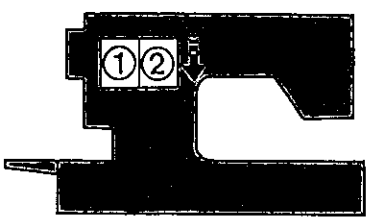




針糸調子器①を強くするか、ルーパー糸調子器②を弱くしてください。

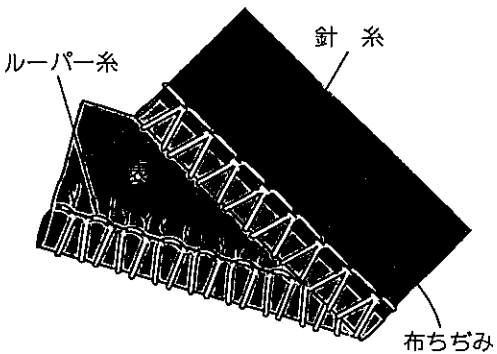
《ルーパー糸が弱い》

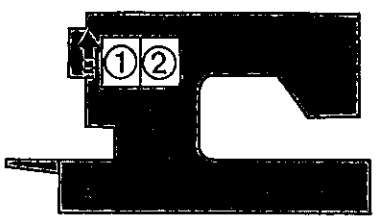




ルーパー糸調子器②を強くしてください。

《針糸が強い》

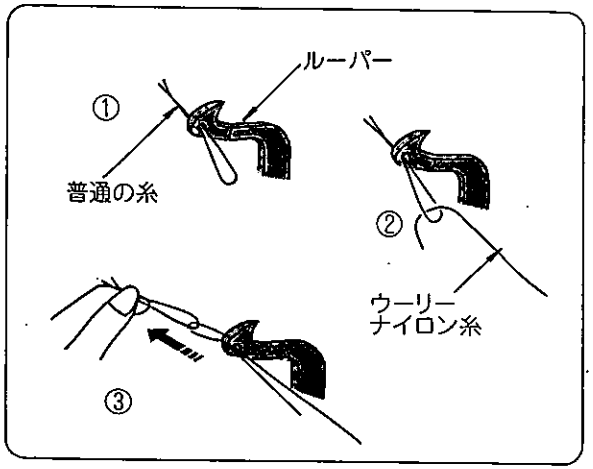




針糸調子器①を弱くしてください。

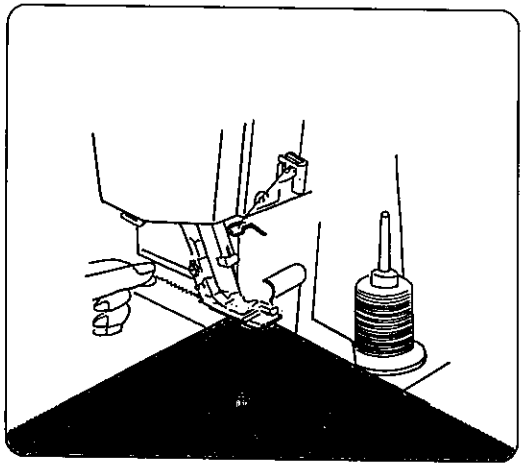
○オーバーロックの上手な使い方

★ウーリーナイロン糸の通し方



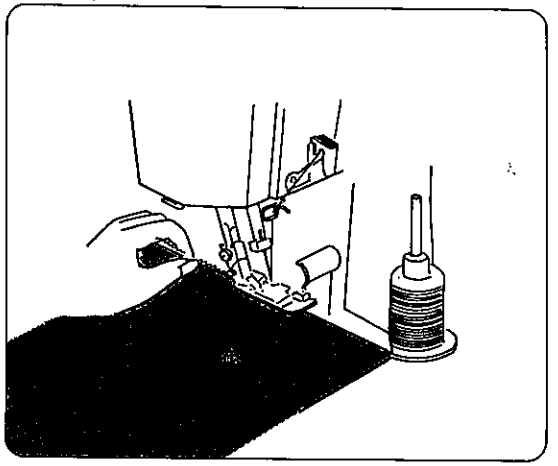
○ルーパーの穴に通しにくい
ウーリーナイロン糸などは
上図の方法で通します。

★巻き縫い



○縫いはじめは、から縫いされた
糸を指で少し引きぎみにして縫
うときれいに仕上ります。

★ピコ縫い

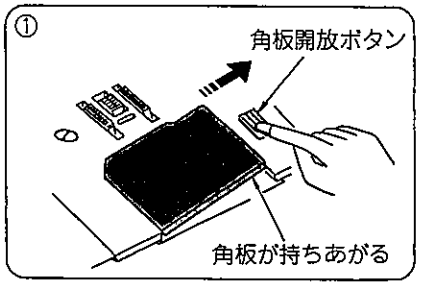


○布を軽く引きながら縫うと、き
れいに仕上ります。

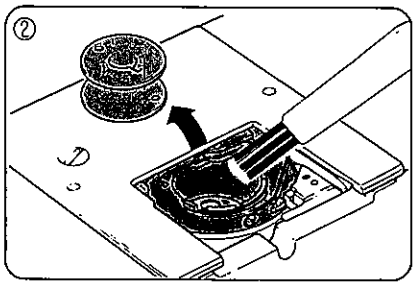
○ミシンの手入れ

使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。
＊手入れのときには、必ず電源スイッチをOFFにして、コンセントから電源プラグを抜いてください。
＊手入れのときには、説明されている個所以外は分解しないでください。

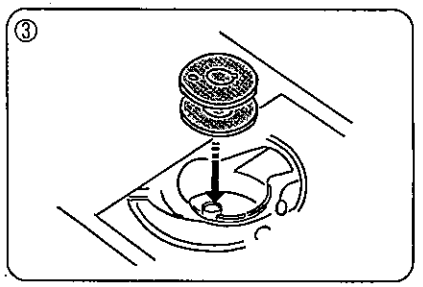
■かまの掃除



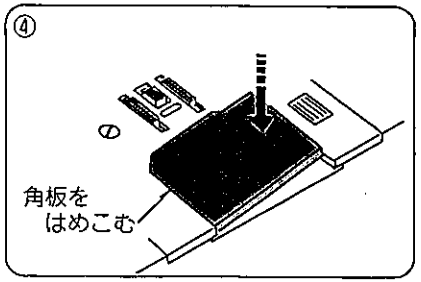
①角板開放ボタンを右へずらして角板をはずします。



②ボビンをとり出し糸くずや、ほこりを、ブラシで掃除します。
＊ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。

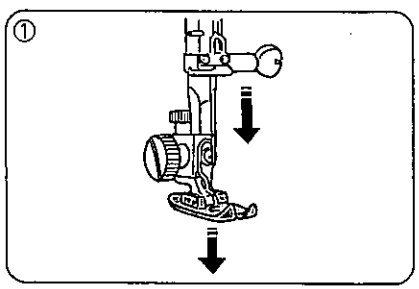


③ボビンを入れます。

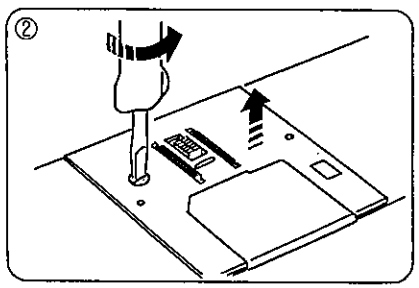


④角板をしめます。

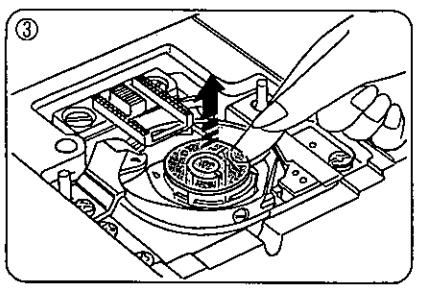
■かまの分解



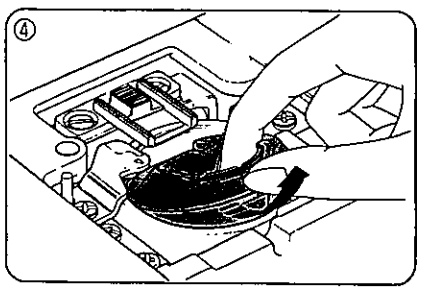
①針と押えをはずします。



②針板しめねじをはずし、針板をはずします。

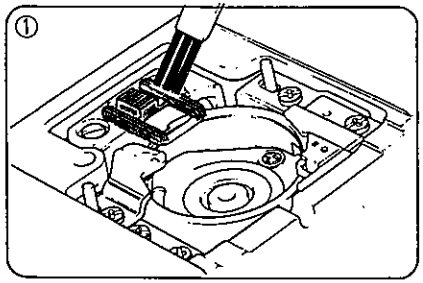


③ボビンをはずします。

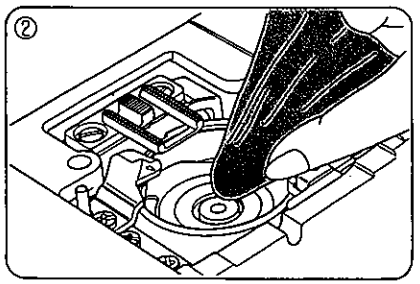


④内がまの手前を上に引きながらはずします。

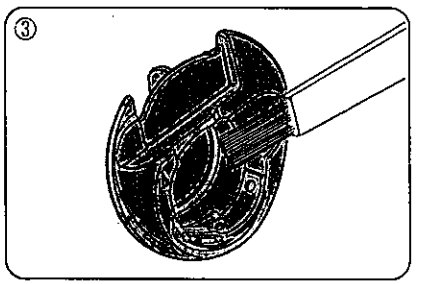
■かまと送り歯の掃除



①送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

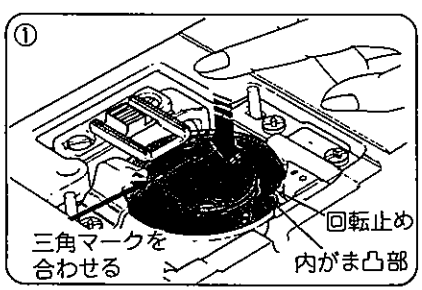


②外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

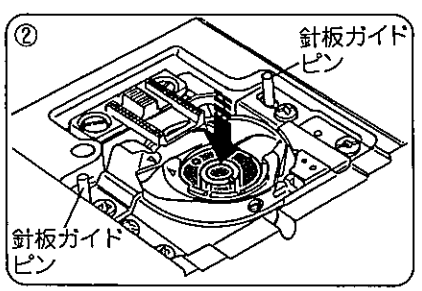


③内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

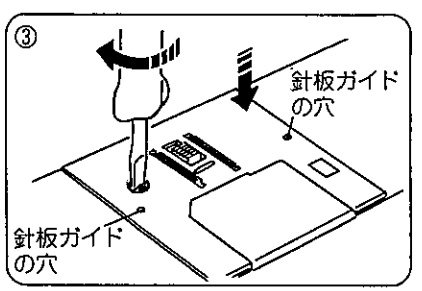
■かまの組立て



①三角マークを合わせ、内がまの凸部が回転止めの左側に入るように、内がまをとりつけます。



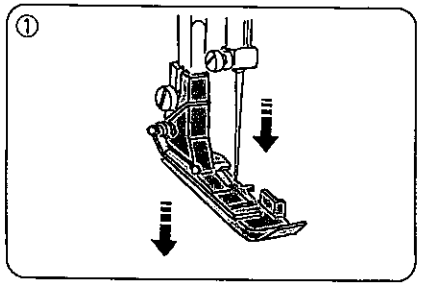
②ボビンを入れます。



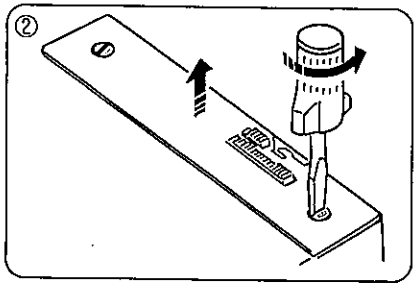
③2か所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、しめねじをしめます。

＊手入れがおわったら、忘れずに針と押えをつけてください。

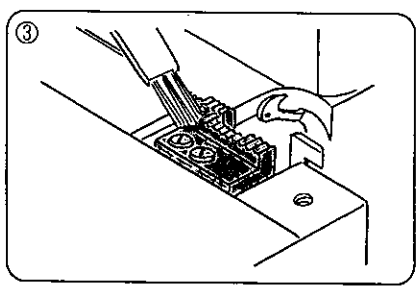
■送り歯の掃除《オーバーロック側》



①針と押えをはずします。

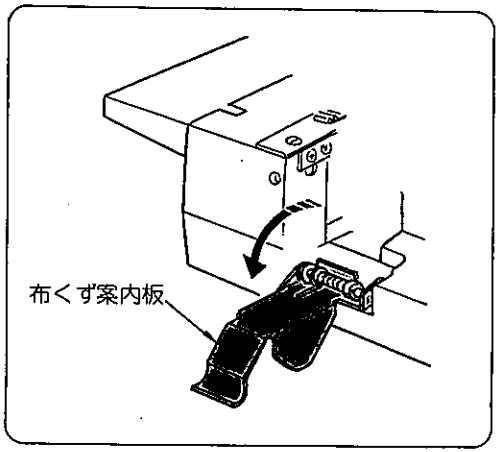


②針板しめねじ2か所をはずし、針板をはずします。

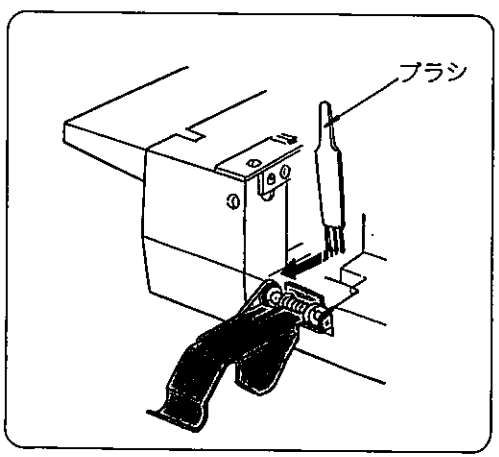


③送り歯のごみを、ブラシで手前に落とします。

■切りくずの掃除

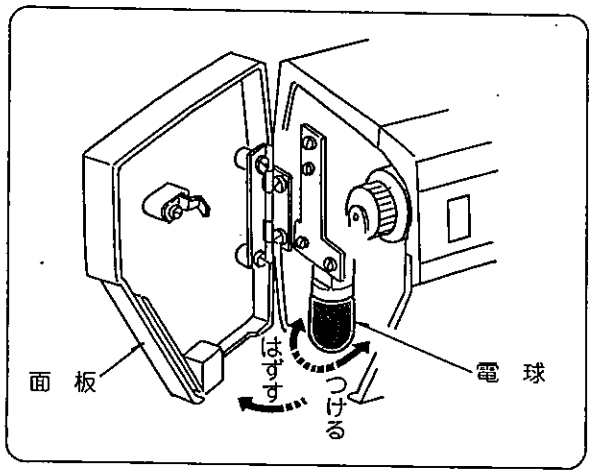


①布くず案内板をひらきます。



②切りくずを、ブラシで手前に、取り除きます。

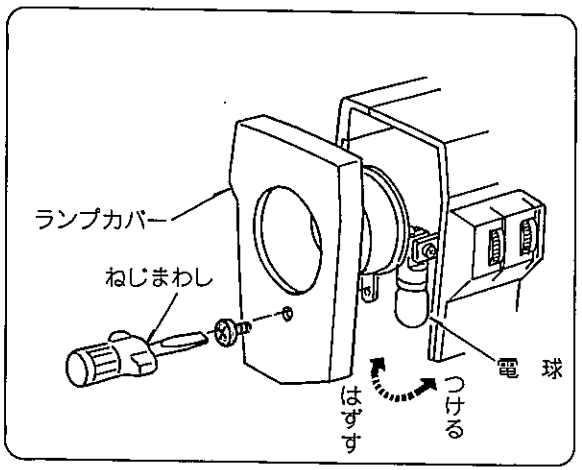
■電球のとりかえ方〈直線・ジグザグ側〉



電球をはずすとき……左にまわします。
電球をつけるとき……右にまわします。

＊電球をとりかえるときは、電源プラグを抜いてください。

■電球のとりかえ方〈オーバーロック側〉



①ねじまわしでしめねじをゆるめ、ランプカバーをはずします。

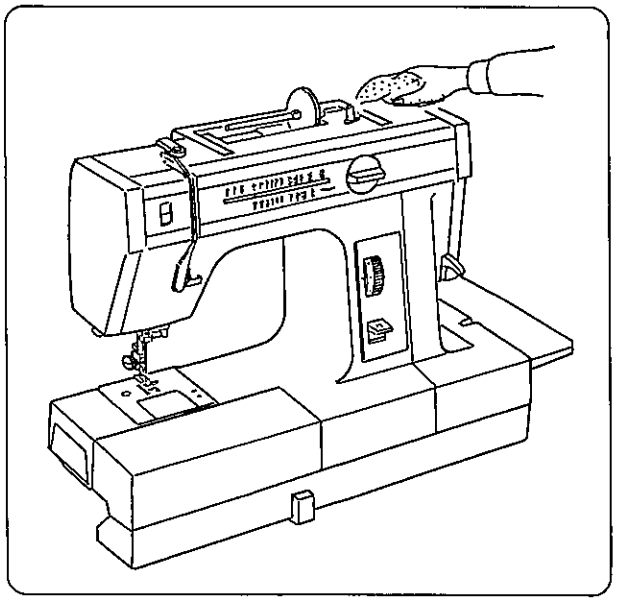
②電球をはずすとき……左にまわします。
電球をつけるとき……右にまわします。
＊電球をとりかえるときは、電源プラグを抜いてください。

③電球のとりかえがおわったら、ランプカバーをとりつけ、しめねじをしめます。

＊安全のため、電球をはずした状態で、ミシンを使用しないでください。

＊電球は100V、12W以外のものは使用しないでください。

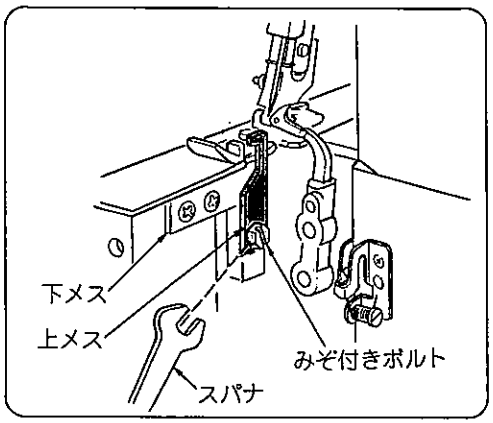
■外装の手入れ

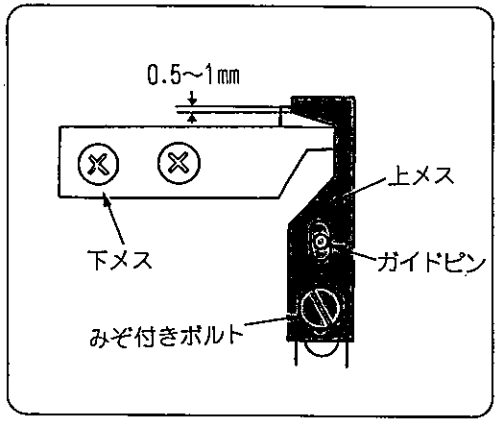


ほこりや油などの汚れは、水をつけずに、乾いたやわらかい布でふきとります。ポータブルケースは、中性洗剤などで軽くふきとります。

＊シンナー、ベンジン、みがき粉は絶対に使用しないでください。

■メスの交換





《取りはずし》

①電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜きます。

②布くず案内板をひらきます。

③みぞ付きボルトをゆるめ、上メスをはずします。

《取りつけ》

①上メスをガイドピンにはめ、みぞ付きボルトで軽くしめます。

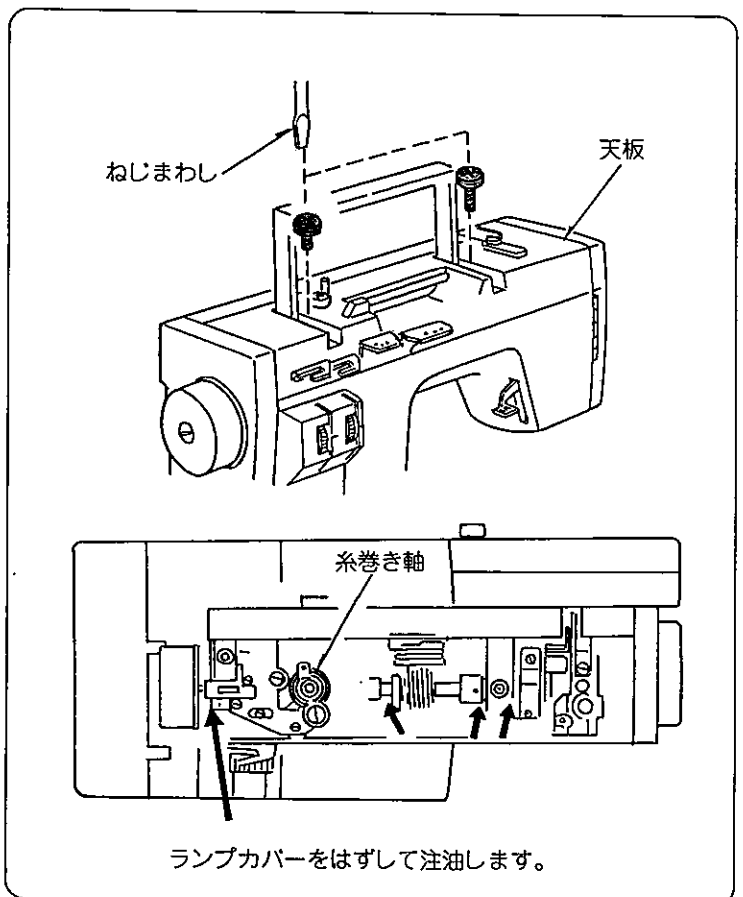
②はずみ車を手でまわし、メスが最もさがったとき、上メスと下メスとのかみ合いが、0.5～1㎜となるように、上メスの位置を調節してみぞ付きボルトをしっかりしめます。

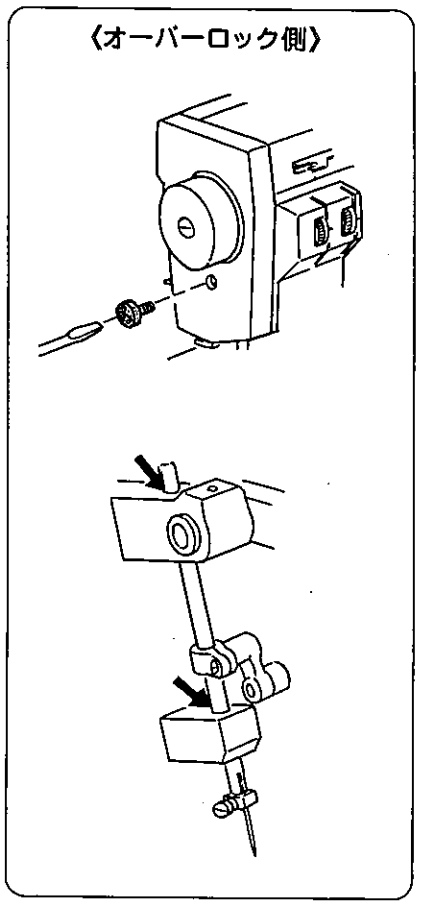
③布くず案内板をしめます。

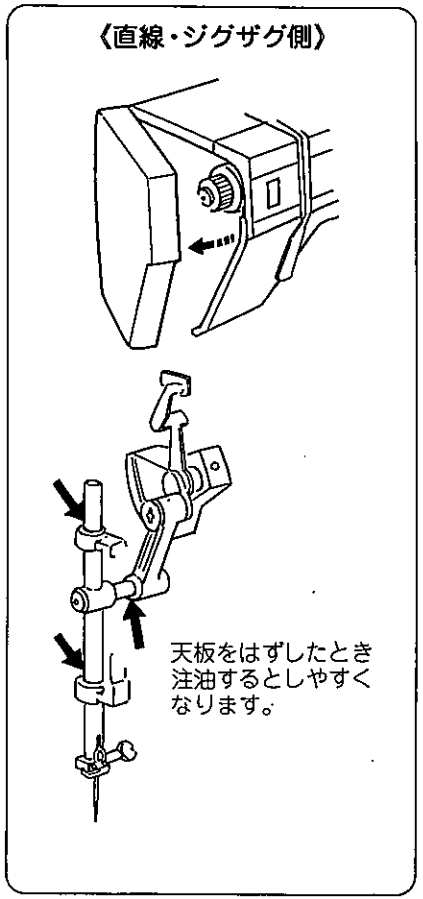
＊下メスは超硬合金製ですので通常は交換する必要がありません。

■注油のし方

矢印の個所に良質のミシン油を１～２滴注油し、注油後ミシンを１～２分ほど回転させて、よく油をしみこませます。一般家庭では１週間に１度、継続して使用するときは、10時間に１回くらい。また、しばらく使用しなかったときは、使う前に一通り注油してください。







●調子がよくないときの直し方

《直線・ジグザグ側》

調子がよくない状態	原　　因	直　し　方
上糸が切れる。	①上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ②上糸調子が強すぎる。 ③針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ④針のつけ方がまちがっている。 ⑤縫いおわったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑥糸が針にくらべて太すぎるか、細すぎる。 ⑦縫いはじめに、上糸・下糸を押えの下においていない。	15ページ参照 18ページ参照 11ページ参照 11ページ参照 21ページ参照 10ページ参照 17ページ参照
下糸が切れる。	①下糸の通し方がまちがっている。 ②内がまの中に、ごみがたまっている。 ③ボビンに、きずがあり、回転がなめらかでない。	14ページ参照 56～57ページ参照 ボビンを交換する。
針が折れる。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③針止めねじのしめつけがゆるんでいる。 ④上糸調子が特に強すぎる。 ⑤縫いおわったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑥針が布にくらべて細すぎる。 ⑦針が布にささっているときに、模様選択ダイヤルを操作した。	11ページ参照 11ページ参照 11ページ参照 18ページ参照 21ページ参照 10ページ参照 針をあげてから操作する。

調子がよくない状態	原　　因	直　し　方
縫い目がとぶ。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③針と糸が布に対して合っていない。 ④上糸の掛け方がまちがっている。 ⑤伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 ⑥品質の悪い針を使用している。	11ページ参照 11ページ参照 10ページ参照 15ページ参照 10ページ参照 針を交換する。
縫い目がしわになる。	①上糸調子が強すぎる。 ②上糸･下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ③針が布にくらべて太すぎる。 ④布にくらべて、縫い目があらすぎる。 ＊特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	18ページ参照 14～15ページ参照 10ページ参照 縫い目を細かくする。
縫い目に輪ができる。	①上糸調子が弱すぎる。 ②糸にくらべて、針が太すぎるか、細すぎる。	18ページ参照 10ページ参照
布送りがうまくいかない。	①送り歯に糸くずがたまっている。 ②縫い目が細かすぎる。 ③送り歯があがっていない。	57ページ参照 縫い目をあらくする。 ９ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントにプラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②かまの部分に糸が巻きこまれている。 ③模様選択ダイヤルが《オーバーロック》になっている。 ④糸巻き軸がボビン押えの方に移動している。	７ページ参照 56～57ページ参照 ８ページ参照 13ページ参照
音が高い。	①かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 ②送り歯にごみがたまっている。	56～57ページ参照 57ページ参照

《オーバーロック側》

調子がよくない状態	原　　因	直　し　方
布地を送らない。	①送り歯に糸くずがたまっている。 ②押えがあがっている。	58ページ参照 押えをおろす。
針が折れる。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③布地を無理に引っぱった。	41ページ参照 41ページ参照 縫う時は軽く引く 程度にする。
糸が切れる。	①糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ②糸調子が強すぎる。 ③針のつけ方がまちがっている。 ④針がまがっていたり、針先がつぶれている。	43～46ページ参照 48、51、53、54ページ参照 41ページ参照 41ページ参照
縫い目がとぶ。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	41ページ参照 41ページ参照 43～46ページ参照
縫い目の調子が悪い。	①糸調子が強すぎるか、弱すぎる。 ②糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ③針と糸が布に対して合っていない。	48、51、53、54ページ参照 43～46ページ参照 40ページ参照
縫い目がしわになる。	①糸調子が強すぎる。 ②糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	48、51、53、54ページ参照 43～46ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントにプラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②模様選択ダイヤルが《直線・ジグザグ》になっている。 ③糸巻き軸がボビン押えの方に移動している。	7ページ参照 38ページ参照 13ページ参照

724-800-807(K)

仕様			
使用電圧	100V 50/60Hz	縫速度	毎分750回転
消費電力	60W/ランプ12W	使用針	家庭用 HA×1 SP針11番・14番
外形寸法	幅42cm×奥行20cm×高さ30cm	縫い目のあらさ	1～3mm
重量	11kg（本体）	かがり幅	3.5mm

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承下さい。

お客様相談コーナー

★ジャノメミシンでは全国350近くの直営支店で万全のアフターサービスをしております。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。
★お問合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や個所がわかって便利です。
★アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室　☎03(3277)2315
〒104 東京都中央区京橋3－1－1

札幌支店　☎011(261)5671
〒060 札幌市中央区南二条西2丁目NSビル

仙台支店　☎022(221)3591
〒980 仙台市青葉区国分町3－5－32

新潟支店　☎025(228)6201
〒950 新潟市寄居町343－17

名古屋支店　☎052(733)5116
〒464 名古屋市千種区内山3－33－14

大阪支店　☎06(213)1635
〒542 大阪市中央区心斎橋筋2－6－9

京都支店　☎075(211)9132
〒605 京都市中京区丸太町通烏丸東入光り堂町420 京都インペリアルビル

広島支店　☎082(228)5181
〒730 広島市中区幟町15－9

高松支店　☎0878(31)1721
〒760 高松市常磐町1－4－10

福岡西新支店　☎092(846)7930
〒814 福岡市早良区西新2－6－2

熊本支店　☎096(354)6523
〒860 熊本市上通り町8－15

＊上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

本社移転のお知らせ

平素は弊社製品のご愛顧を賜わり厚く御礼申し上げます。
さて、この度、弊社は下記に本社を移転することとなりましたので
お知らせ申し上げます。
今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記

◉移転先

住　所　〒193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
電　話　お客様相談室 0120 － 026 － 557（フリーダイヤル）
　　042 － 661 － 2600
受付　平日 9：00～12：00 13：00～17：00
　　（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ　http://www.janome.co.jp
メールでのお問い合わせ　customer@gm.janome.co.jp

◉移転日

2009 年 7 月 6 日

※旧住所　〒104-8311 東京都中央区京橋 3 丁目 1 番 1 号
旧電話　お客様相談室 0120 － 026 － 557（フリーダイヤル）変更なし
　　03 － 3277 － 2200

蛇の目ミシン工業株式会社

101013002